

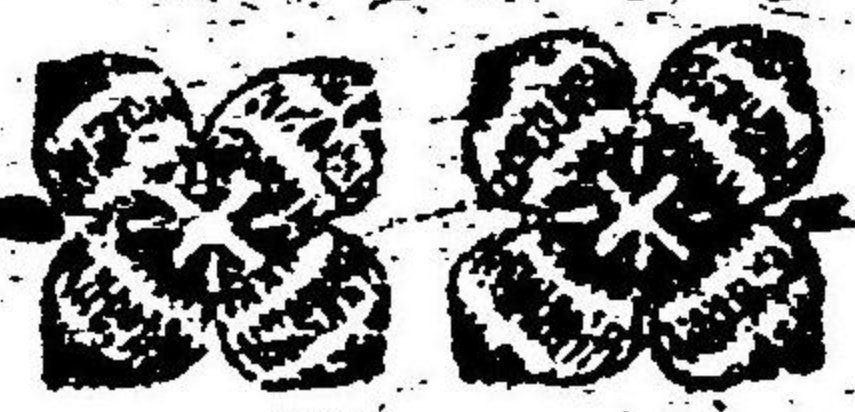
特54

855

普通學研究會著

高等  
小學地理歷史字引

第一學年前期用



普通學研究會著

# 全學科復習問答

尋常五學年前期用 各一冊  
尋常六學年前期用 拾貳錢  
高等一學年前期用 送料  
高等二學年前期用 四錢

皆さん、今度私方から出しました全學科復習問答は、これまであつた表解とか自修書とかいふものはちがつて、そこに問ふ人があつて、それに答へるかのやうにおもしろく書いてあります。そして皆さんが、學校で學ばれる學科は、それ／＼もくても、おもしろい方法で、此の書はそのもくても、此の本を見られたら、おもしろくて、手をはなすことの出來ない間に、學力が進んで來ます。そんなより、やうこ、此の本が他の本よりはすぐれてよい所をごらん下さい。

普通學研究會著

## 綴方文例

尋常五學年前期用 定價一冊金拾貳錢  
尋常六學年前期用 郵送料金四錢

普通學研究會著

# 高等小學地理字引

第一學年前期用

普通學研究會著

高等  
小學

# 地理字引

第一學年前期用

45. 3. 15

內夾

高等小學地理字引

第一學年前期用

普通學研究會著

第一 亞細亞洲

總論

東半球。北冰洋。印度洋に臨み。脈中に山脈。世界

界第一の高山とす。西藏高原を抱く。山脈連互

せり。山脈ガツ。概ねタイ注ぐ。流レ是等。諸大河の流域

各々廣き平野あり。印度支那半島。日本

列島。日本ノタツ井ル島々。圍む。突出し。亞弗利加。紅海を

挟む。地勢複雑なるが故に。土地ノ有様ガコミ。各地の氣候一

様ならず。アチラコチラノ土地。寒暑の變化。殊に甚だしく

北部の平原。世界ノ最寒地。東南沿海

の地方。一般に溫和なり。降雨多し。沙漠。草地相

連れり。生物ノ氣候の影響を受けて。各地

其の趣を異にす。植物の成長盛にして

サカン椰子樹。榕樹。熱帶植物。熱帶地方ニ出。象。猩猩。鱈。孔。

雀等。駱駝。羊。牧養行はる。動物ヲヤシナフコ。生物次第に。

種類を減じ。動植物ガダンダンニ極北の部。北ノ部分。僅。矮小なる樹。

木。マコトニ小。苔の類。馴鹿。白熊。其の數八億に餘りて。

其ノ數ガ八億。世界人口の過半を占め。世界中ノ人カズノ半分。亞細亞人。

種に屬す。種ニツク。歐羅巴人種之に次ぎ。ゴノ次デア。其の以。

南に住す。住ンテ居ル。馬來人種。其の數遙に少く。其ノ數ガズツ。

宗教の重なるもの。シユウシノオ。佛教。印度教。其の信徒甚。

だ多く。層オホクテ。本州に起り。コノ州ニ。世界の大宗教。世界中テ尤モ。

ル宗。獨立國。我が國を除くの外。ケタホカ。專制國。天子ガ自分ノ思。

ル國。國勢甚だ振はず。層振ハナイ。廣く内地に互れる地方を。

占め。ヒロク國ノ内ノ方ニ。其の面積。中部。保護を受くる。ウシロミチ。

是等の諸國を除きては。西洋諸國。領土たり。領分ノ土全。

州。洲全。亞細亞土耳其。英領。含み。佛領印度。蘭領。オランダ。

清國

普通。支那と稱せられ。支那ト言。面積。廣ク土地ノ土地の大部分。

高原かうげんの占しむる所ところが土地ノ高イトコロ。黄河くわが。揚子江やうすかう。下流地方かろうち。

珠江流域しゆかうりう。珠江しゆかうトイフ河ノ流。滿州平野まんしうへい。重要なる部分ぶぶん。大事だいじナ遼東れうとう。

山東さんとう。抱いだかれたる外ほか。揚子江流域やうすかうりう。以南いなんの地方ち。氣候きこう。

温暖わんだんにして雨量うりやう多く。養蠶やうざん。製絲せいし。寒暑かんしよの差さ稍や大だいな。

れども寒さむイアツイノチガヒ。國內こく内一般いぱんノ中ちゆう豚ぶたの飼養かうやう行おこなはる。豚ぶたノ飼かうフ。

輸出品ゆしゅつひん外國がいこくニウリ。綿絲めんし。綿織物めんおりのもの。阿片あへん。其そのの領地りやうちを始はじめ。領分りやうぶん。

ノ土地ちチハシ。我が國わがくにの重おもなる取引とりひき先さき。我が國わがくにノチモナ。綿めん。豆粕まめかす。豆まめ。

類るい。砂糖さとう。高原地方かうげんち。交通不便かうつうふべん。水路すいろう。水運すいん。

本流ほんりうの河口かこうより溯さかのぼる。揚子江やうさかノ河口かカ有名いうめいなる大運河だいうんか。名高なイ大だいキ。

下流かろうを貫つらぬきて。道みち下したチツ。南北なんぼくに通つうじ。近年きんねん所しよに敷ふ。

設せつせられて。近年きんねんトコロノ鐵道てつどうチシカレテ。主要しゆえうナル漢口かんか。揚子江やうさかノ市し南滿洲鐵道なんまんしゅうてつどう。

連絡れんらくナル。南北なんぼく交通かうつうの幹線かんせん。南なんト北ほくトニ通つう自みづから經營けいえいするもの分ぶん。

アケイカクチ立たテ。其そのの數かず四億しおくを超こへ。漢族かんぞく。滿洲族まんしゅうぞく。蒙も古こ族ぞく。

西藏族しやうざいぞく。種族しゆぞく人間じんげんノ多數たすうを占しめたる。多おほイト性質せいしつ勤きん勉べん。生せいレツキヨ。

ハタ商業しやうげんに通つうじ。商業しやうげんノコト海外かいがいに出稼いせす。外國がいこくニ勤きんキ。辦髮べんぱつニシテ頭かぶノマ。

ン中ちゆうニ殘ざんシ。纏足てんそく支那しなノ女にノ人ひとガ子供こどもノ時ときカラ。風習ふうしゆハシ。政治せいぢ上じやうの勢力せいりき。政治せいぢ上じやう。

テ後ごニタル。纏足てんそく支那しなノ女にノ人ひとガ子供こどもノ時ときカラ。風習ふうしゆハシ。政治せいぢ上じやうの勢力せいりき。政治せいぢ上じやう。

普及ふんきマル先進國せんしんこくに倣ならひヨク開ケタ國ノ設立せつりゅうルタテ多數たすうの留學生りゅうがくせい  
 外タクサンノ學生チ國ニ學問ニヤル政體せいだい。君主專制くんしゅせんせい。君主くんしゅガ政治せいじチホ中央政府ちゆうせい。軍機處ぐんきしよ。  
 內閣ないかく・外務部がいむぶ・民政部みんせいぶ・度支部たくしぶ・陸軍部りくぐんぶ・法部はふぶ・農工商のうこうしやう  
 部ぶ・學部がくぶ・郵傳部ゆうてんぶ。直省ちやくしやう・藩部はんぶ。總督そうとく・巡撫じゆんぶ。特別とくべつの  
 官吏くわんり。駐在ちゆうざいせしむ居ラセル。白河はくか。首府しゆふ。市街しがい。中中町町。內城ないじやう。外  
 城じやう。北京ぺいきんの咽喉いんこう入口いりぐち。北岸ほくがんに位くらする要津えうしん。北北ノ岸岸ニアル大切。船船ツキ英吉利いぎり  
 の租借地そしやくち。リテ居ル土地ちと。威海衛ゐかいゐい。日清戰役にっしんせんえき。日本にっぽんト支那しなノ戰せん。歴史れきし上じやう有名いふめい  
 の都會とくわい。歴史れきしノ上じやうテ名高。都會とくわい。西安せいあん。萬里長城ばんりちやうじやう。遼東灣れうとうわん。北邊ほくへんに沿そひ北ノ

二沿に大運河だいうんか。大大キナ人に二大工事だいたこうじ。二二ツノ大大繁盛はんせい。盛盛カナ生絲せいし。綿布めんぷ。阿  
 片へん。中流ちゆうりゅうに臨のぞみて漢口かんこうあり。漢口かんこうノ中中ホドニ對岸たいがの武昌ぶしやう岸岸ノ向向フ  
 漢陽かんやう。製鐵事業せいてつじや。原料げんりやうを此こに仰あぐモトトナル材料チ。上流地方じやうりゅうち  
 の要津えうしん。川川上上ミノ方方ノ成せい都と。珠江しゆかうの流域りゅういき。廣州くわうしやう所所ノ英領えいりやう。英領えいりやうノ領分りやうぶん。東  
 洋貿易やうばうい。福州ふしやう。兩族りやうしゆくノ佛敎ぶつこうの一派いっぱ。佛敎ぶつこうノ一一ツ寺院じんいん多おほし寺ガ  
 宏壯くわうさう。非常ひじやうニ大本山だほんざん。教主けうしゆ。僧そうノコト政治せいじ上じやうの實權じつけんを握にぎり政治  
 ノ實際じつざいノ權利けんりチニギツテ居ル。古來こらい王朝わうてうの興廢こうはい。昔むかしカラ皇室てんしやうノオコ甚だ繁しげくタイソウ。國こく  
 號屢がうしほ々へん變へんじたり國ノ名前ガ何ベ。興おこり。全國ぜんこくを一統いつとう。國こく中中チ一一ツニス。國こく

運一時隆盛を極めたり。國ノ勢ヒガ一時香港。海岸の諸要地

海岸ニアルアチラコ西洋諸國の制度に倣ひて。西洋各國ノヤリ種々の

改革を施し。メ方チシテ國運の發展を圖れり。國ノ運ノ開ケ進ム

亞細亞露西亞

西比利亞。廣大地域を占め。地勢西北に開け

て。地方ニヨク開ケテ。低き地方。歐亞の境。傾斜概ね緩

土地ノ傾キ方が。盛夏の外。夏ノマサカハ。地面凍結。地ノ表面。森林。沃野。肥エ

平野。鮮。鮭。好漁場。本邦人ノ出漁。船舶の出入

船ノ出。敦賀。定期航海の便。西比利亞鐵道。起點

オコル。東清鐵道に連り。歐羅巴。域内。沙漠。鹹湖

シホホナタダヘ。最大湖。中央に互り。附近

亞細亞土耳其。亞刺比亞

地中海と黑海。突出。小亞細亞半島。更に延びて

又ノ兩河の流域に屬し。太古所々に部落

あり。會長。遊牧を業とす。基督の

墓。紅海沿岸。土耳其領内。航海上の要地



地波斯。英。露。兩勢の間。僅。首府。

印度

約九倍オホカタル英領中最も重きを置かる多クアル英國ノ領分ノ中テ

肥沃の平野タルヨク肥エ重に原料を此に仰ぐオモニモトノ材料南端

頗る盛盛テアル次第に増加しフエテ来テ羽二重中流に臨み

川ノ中ホドニムカツテ印度教の靈地として著れ印度教ノアリガタイ土近傍

釋迦の遺蹟。定期汽船の往來日チキメテ航海ス航海の要路

に當る航海チスルニ大文化夙に開け早クカラ開ケ佛教の開祖佛カレ

人釋迦の出生地釋シヤカノ生來航。其の政權を握るに至れ

りソノ政治ノ權ヲ握ル様ニナツタ

印度支那

南に延び。馬來半島。數條の山脈五六スガ數多の河流タク

河沿岸に肥沃の平野あり岸ニ沿フテ井ル處ニヨ頗る多く。南京

米と稱す南京米木材モク暹羅。佛領印度フランスノ領分海峽殖

民地。英國の侵略英國ガ攻國遂に亡び。武勇。屢々興廢

ありて何ベンモサカヘタリセビ今今ノ皇の王朝は室ハ先進國の文明に

做なひ進しんミ開あケタ國こくノ國政こくせい獨どく立りつの體面たいめん。佛國ぶつこくの侵略しんりやく。其その

勢力せいりきの下もと。東西交通とうせいかうつうの要點えうてんに當あたりノ事洋ト西洋トノ交通

馬來群島

大小だいせうの島嶼とうしよ。大だいキナ島きんとう群島ぐんとう。熱帶中ねつたいちゆうに在あれど。海洋かいやう

の影響えいきやう。海かいノサシ暑氣しよきを和やはらぐ。煙草たばこ。香料かうれう。和蘭おらんの

領地りやうち。

第二大洋洲

散布さんぷする諸島しよとう。其その大部だいてい。赤道せきだうの南みなみに位くらす地球上一

イトコロノ南ニアル

濠太刺利

五十萬方里ごじゅうばんぱうり。一いち方里ぱうりハ四方しやう方ぱう周邊しゆうへんに高たかくマハリニ氣候ききゆう溫和おんわ。内地ないち

は寒暑かんしよの差さ甚はなだしく。國こくノ内うちノ方かたハ寒暑かんしよ。固有こいうの珍めづしき動植どうしよく

物ぶつ。モトカラアルメツラ原種げんしゆ。主要しゆえうの產物さんぶつ。世界せかい屈指けいしの巨きよ

額がくに上のぼる世界テモ指ナリニ木曜島ぼくえうとう。在留ざいりゆう。眞珠貝しんじゆがいの採取さいしゆ。眞球しんきうト

ヲ取リ集メル從事じつじシタ。西班牙えすぱにや。探檢たんけん。奮ふるつて。殖民しよくみん。人民じんみんヲソコニヤツ占

領りやう。金鑛きんくわう。山さん。人口じんこう繁殖はんしよく。聯合れんがふ。聯邦れんぱうを組織そしきし國ヲ集メテ

本洲の諸島

全面積ノ廣サ總人口。往々トキ珊瑚礁ノサンゴトイフ虫。海風の影

響シサハリ。暑熱アツ。悉く分領トルケテ。凍肉。タ肉。甘蔗の耕作に

従事す。ルコトニシタガフ要津。大切ナ

第三 歐羅巴洲

北氷洋。亞弗利加。略々。北海。迫りてテ。地中海の咽

喉を扼す。地中海ノ入地。地中海と黒海とを分つ。地中海ト黒海ト

を除くの外。外ヶ島チノ高山。山脈の一派。山脈ノ續きて。河流。

東流。北海に注ぐ。北海ニ流裏海。北温帯に位すれど。北ノ温帯

氣候の趣を異にす。氣候ノ様子。影響サシヒ。同緯度。緯度頗る温和

イタツテ。冬季凍結。冬ノ間ハ寒暑の差一般に増加し。甜菜。サトウ

葡萄。牧畜。牛馬豚ナド。需要エウ。供給を仰ぐ。シチクリチシ

各種の交通機關著しく發達し。イロイロノ交通上ノコシラヘ

鐵道の敷設。鐵道チシ。普くして。一パンニ。數條五六連絡ガリ。良港。

船舶の往來繁く。船ノ往來ガ。密度。宗教。シシ。基督教。主とし

て行はる。オモニ。教育一般に普及し。教育ガ全體。技藝の研究。手ヲ

文明の進歩 スベテノ事ガヨク開ケル 佛蘭西。國勢。和蘭。西班牙。葡

萄牙。土耳其。立憲政體 憲法ヲコシラヘテ政治ヲスル國柄 瑞西。共和國 大統領ヲセ

露西亞 天皇ノ治メテ領土ヲ有セリ 領土を有せり 領地ヲモツテ井ル

露西亞

併せて イツシヨニシテ 形成し カタチチツクリ 地勢一般に平坦 土地ノ有様ガ緩カ

水運の利 水ノ上ノ便利 農業國。凍原 コゴリタ 森林連り 大キナ林ガツツク 貴金屬

内地交通の要路 國ノ内ノ行キキヤ 當り。控へ。内治を改良 國ノ内

の如く 今日ノ 廣大なる版圖 ヒロクテ大 瑞典。諾威。半島の脊

梁 半島ノ 相背けり。西側。山岳 ヤマヤマ 岸に迫り。絶壁 キツタテ

舟泊の要地 舟ガツナグ 丁抹 テマ 門戶 入り 概ね おほむ 低平 ヒク 牛酪 牛乳

間歇溫泉 イテ吹キダス溫泉

獨逸

略々 おほむ 中央 ナカ 露・奧・佛。界を接す 國ノサカヒ 山脈連亘 山脈ガツ

大平原 大キナ 沿海の地 海ニソフ 連絡 れんらく 重要 ヂヤウヂヤウ 頗る發達 ハツタツ

甜菜サタウ 廣く栽培一般ニ 河畔川ノホ 溫暖カタタ 鑛産物クワウサン 世  
 界屈指世界デユ 巨額ノタクサン 近時キンジ 盛大セウダイ 織物オリモノ 夥しオビタイ 化學工  
 業品ケイヒン 促しウナガ 總額ソウガク 全體ノタクカ 世界第二ニ 位ニ 出版業シヤウハン 奧地利オーストリア 洪牙利ハンガリー  
 染料ゼンリョウ 毛絲モウシ 學術ガク 上流シヤウリウ に臨むリンム 川カハミ 出版業シヤウハン 兵制ヘイセイ 推され  
 工藝品コウギヒン 釀造ジョウゾウ 酒サケ ナドチ 聯邦レンパウ 國クニ ノア 皇帝クワウテイ ノコト 兵制ヘイセイ 推され  
 國威クニカミ 大いに振ふる へヘンウツヨク

高等小學地理字引 第一學年前期用(終)

普通學研究會著

高等小學 日本歷史字引

第一學年前期用

高等小學日本歴史字引卷一 第一學年前期用

普通學研究會著

第一 天孫降臨

太古オホムカシ天照大神アマテラスオホミカミ御孫瓊瓊杵尊おんまこと治めささ詔してみことり豊とよ

葦原瑞穂國あしはらのみづほのくに天孫くわうそん天壤と窮なかるべてんじやう きはまり

寶祚ほうその隆さかえまさん天子ノ御位ノサ天壤てんじやうと窮きはまりなかるべ

素盞鳴尊すさのをのみこと勇猛ゆうまう出雲いづも遣はし御子孫命乃みことすなは

し天地ノキハマリナイト同シ様ニ萬世ばんせい一系いつけいの皇統くわうとう古名こめい

ち仰おほせを承りうけたまは。國土こくど祀まつる。出雲いづも大社おほやしう三種さんしゆの神器しんぎ。

中臣なかとみ氏の祖そ。大伴おほとも氏し。日向ひうがに降り九州ノ日向ノ國。歴代れきだいの天てん

皇代わうだい々ノ相傳あひつたへて次カラ次ギヘテ皇位くわうゐのみしるし天皇様ノ御位

第二 神武天皇の創業

御曾孫ごそうそん統とう一いつする所ところなき由よし。聞召きこしめしレテ舟師しうしを率ひきひク

軍備ぐんびノ用意ようい整ととのへ。難波なんば拒ふせぎ奉りたてまつ。路みちを轉てんじ進ンテ行

紀伊きい國くにノ到いたる所ところ行行ケバ行ク賊そくを平たのげ。金色きんいろ。弭ゆはすハシノトコロ眼眩めくらめ

目めガク目ガク頑冥ぐわんめい降參かうさん。肯かへんぜざりしかばツダカラ

順逆の道理に暗くヨシアシノ道理ヲ厚くヨクシラナイテ。物部氏の祖物部氏ノ先祖

大和地方。平定ウチシタガヘル。橿原の地。宮中に安置マツリナシテ

中臣・齋部。朝廷を衛りモリナシ。地方官地方ノ政治ヲスル役人

第三 皇威の振興と世運の進歩皇室ノ盛ニナルコトトシ世ノ中ノダンダン進ムコト

崇神天皇。位に即き。皇族の御方天皇ノ御方。四方の國四方ノ國

の地アチヲコチニ。派遣メグリアルイテ。熊襲九州地方ニ。蝦夷今ノ奥羽地方ニ。遠隔チライツモ天

皇威に服せざりき天皇様ニ從ガ。叛く。日本武尊。詔を奉じヤマトタケルノ命ニ從ハナカツタワル者

て天皇ノオホセヲ。愈々ウケタマハツテ。四方に振へりダンクトアチヲ。殿を同じくテンヲ

起臥キタリオ。憚り給ひ。模造マネテ。代々タテヲ。傳承ツケル。次のツギ

帝天皇。垂仁天皇。皇女天皇ノ御子。遷し祀る。皇大神宮。參拜ミヤマヒ

東國。御叔母。授かりイタ。御歸途征伐チシテ。熱田神宮。狩シユ

獵の獲物カリチシテ。手業の織物。池溝を開き池ヤミヅナ。農事ノウジ

を勧めケマシス。利益を圖り。物足りてスベテ物事ガ。韓土カンチ。新羅シンラ

使者使ノ。將軍の派遣を請へり將軍ヲツカハス。隣國リンコク。新羅シンラ

國ノ保護ロミシメ。鎮め。日本府日本ノ役所。貴人身分ノ高イ人。從者オトモ。人殉死ヒトノア

トナオヒテ**習慣**。慈愛の御心ハユクシミカ輪の如く。周圍。竝べ

第五 韓土の服屬と學問・工藝の傳來

服屬我が國ニシタ工藝の傳來イロイロナ仕事ヤ、サイ一海峽海峽相對

せるムカヒア太古以來オホ昔屬國ワガ國ニ從フテ認め。武内宿禰

と謀り。百濟國ノ高麗國ノ朝貢シタガフタシルシニ技藝。文物學問ヤ

彼我の往來向フトコチ應神天皇。聞召し。招き。記録を掌

れり書モノノ事チ渡來テ來ル進歩スス外國風。機織。歸化日本ノ人

裁縫ヌヒモノナド長じたる工女スガレタル發達を圖り。雄略天

皇。招に應じてマ子キニ

第五 佛教の傳來と物部・蘇我兩

氏の争。工藝・美術の進歩

佛教。印度に起り印度テハ宗教ウシユ紀元神武天皇ノ位ニ即カレ欽明。

佛像ホトケ様經文オキヤウ朝廷に獻じオカミニサ佛の功德ホトケサク

禮すべきかマツル群臣に謀りオホゼイノケラ薊我稻目。奏し申

上ケ物部尾輿。怒。反對。疫病流行ウツリヤマヒ難波の堀江大

ノ堀江ト投じナゲス孝元天皇。曾孫ゴ勳功テガ大いに榮え大層



ツヤウ **朝政に與る** 朝廷ノ政治ニ關係スレ **其の祖饒速日命** 其ノ祖先ニギハヤヒノ命 **兵を統**

マイクサノ事ヲ **専ら** フオモ **隨ひて** **大臣馬子** **父の志を繼ぎ**

**大連守屋** **攻殺す** **推古天皇** **聖德太子** **篤く** フカ **興隆**

を サカンニナルコト **頓に** ニハ **建築** モノ **繪畫** エヤガ **彫刻** モリ **舊來** フルク **葺く**

**茅** **質素** ナイ **樓閣** タカ **伴ひ** **造寺** 寺ヲツク **技師** ヤズナ **法隆寺**

大和ノ國ニアル寺 **壯麗** パナ **堂塔** 堂ト塔 **建立** コト **繪具** エノ **製法** ツクリ **壯大** ウツクシ

コト **繡佛像** シタ **敏達天皇** **鑄金の術** シユツ **木佛** **銅佛**

**丈六** 丈ケガ一丈六尺アル **鑄造** **刺繡** 美クシイ糸ヲ

### 第六 支那との交通

**豪族** タクサンノ土地人民ヲ以テ **起原** モト **兩國政府** **直接** ヤキヤ **國書** 其

國ノ政府ト政府トノ間ニ **統一** サメル **四隣** 四方ノ **屬國** ウチシタガヘ **待遇** モテナ

**翌年** **妹子** **歸朝** 外國カラ **留學生** 外國ニガクモ **朝命** 朝廷ノ **文物** 學問

**風俗** 昔カラノ **前例に從ひ** 前ノ **遣唐使** 唐ノ國ニ **航海の術**

### 第七 大化の改新と律令の制定

**大化の改新** 蘇我氏ノワガマ、甚ダシカツタノテ中臣ノ鎌足ガ見テ大ニイキドホリ、之ヲ

二人ヲコロシタ、ソコテ孝德天皇ガ位ニツキ給ヒ中大兄皇子ハ皇太子トシテ天皇ヲ助ケラレタ、此

律令法律ノ制定ヤメル官職オカミノ私有テウセイ朝政ニ與ルに與るニ關係スルや

やもすればドウカカ威權センシ專恣ノ行の行ナ行ヒ横暴ノ行の行ナル行舒

明天皇崩崩じ天皇ノオカク皇極天皇入鹿兇惡兇惡非常ニムゴタラ憚

らず専横除きケテ憤り中大兄皇子中大兄皇子誅誅ス輔け支

那支那ノの制シカク年號改革を斷行アラタメル氏族舊制舊制

人材身分、家柄ニカカハラズ、學問登用ヤ智慧ハタラヤアル人ヲ用ヒル内臣曩曩高向高向玄理玄理

制度オキテ、即チ戶籍收穫收穫公役公役帝都帝都國司國司一ツ

郡司郡ヲ治ム要所大事ナ關崩御崩御天皇ノオカク重祚二度天皇ノ位天

智天皇阿倍比羅夫内治國ノ内ヲ治倣ひ修正を經何ペンモ

大寶律令罪を斷ずる標準メヤ刑法官制官制規則太

政官諸政を總ぶ大納言管内管内ノク井キ西海道太宰太宰

府徵兵邊要都カラ遠クテ警備イマシメ用官吏役人ノ諸般の制度

根據主トシテ變更形式際際

第八 奈良朝

和銅聖武聖武孝謙孝謙稱德稱德光仁光仁興隆興隆崇佛崇佛の心佛チマ

國毎に國分寺光明皇后光明皇后臣下臣下新例新例尊信尊信マヒ

ズン **信任** 信用シテ **大佛鑄造** 大佛ヲ鑄ルコト **池溝を開く** 池ヲミヅホル事 **恣にマナシ**

**變亂の原因** ミダレ **不比等** 比シト **淳仁天皇** 淳仁天皇ノ御位 **天位** 天子ノ御位 **覬覦** 自分ノ身ヲ分チテ

レテ天子ノ位ヲアツト **忠烈** 忠義ノ心 **天日嗣** 天皇ノ御位 **皇緒** 天皇ノ御位 **無道の人** 道ニハツレ

ル神託 **非望** 道ニハツレ **遂げ** 勤儉 **冗官** ツマラナ **弊政** 政治

### 第九 奈良朝 (つづき)

**學者の輩出** 學者ガ出ル **唐國** 唐ノ國 **吉備** 吉備ノ國 **阿倍仲麻呂** 阿倍仲麻呂ノ名 **秀才** 秀才ノ名

**才學** 才學ノ名 **當時の唐の大家** 唐ノ大家ノ名 **歸朝の後** 歸朝ノ後 **軍制** 軍制ノ名

**累進** 累進ノ名 **遣唐使** 遣唐使ノ名 **難風に遭ひ** 難風ニ遭フ **果さず** 果ス **歿せり** 歿ス

**書籍の編纂** 書籍ヲ編纂ス **燒失** 燒失ス **勅して** 勅ス **神代** 神代ノ書 **推古** 推古ノ書

**史籍** 史籍ノ名 **編修** 編修ノ名 **柿本人麻呂** 柿本人麻呂ノ名 **山部の赤人** 山部の赤人ノ名 **大伴家** 大伴家ノ名

**皇和歌** 皇和歌ノ名 **持歌集** 持歌集ノ名 **堂塔の建築** 堂塔ノ建築 **彫刻** 彫刻ノ名 **佛畫** 佛畫ノ名 **描寫** 描寫ノ名

**美術** 美術ノ名 **工藝** 工藝ノ名 **促す** 促ス **建立** 建立ノ名 **安置** 安置ノ名 **世界に冠たり** 世界ニ冠リ

**七重の塔** 七重ノ塔 **丈六** 丈六ノ像 **雷に** 雷ニ **繪畫** 繪畫ノ名 **刺繡** 刺繡ノ名 **漆** 漆ノ名

**技術** 技術ノ名 **正倉院** 正倉院ノ名 **寺院** 寺院ノ名 **尙存する** 尙存ス

**器** 器ノ名 **正倉院** 正倉院ノ名 **寺院** 寺院ノ名 **尙存する** 尙存ス

### 第十 平安朝の初期 藤原氏の擅權

平安朝

桓武天皇が都ヲ今ノ京都ニ定メ給ヒシヨリ源賴朝ガ幕府ヲ鎌倉ニ開クマテ凡ソ四百年ノ間チイフ

初期

ノコロ擅權権力ヲモツ

桓武天皇

山城ノ長岡ニ遷シ延曆平安京朝威朝廷

延曆

平安京

朝威朝廷

從來

コレマカフ叛服從ソムイタリ常ななくして

ナイテ

國の累

征討セイタク

鎮靜

ヨクシツマルコト繼續ツヰ方物ほうぶつを貢みつぎし

其ノ土地ニテ

彼我の往

來

入唐にやう最澄さいちやう空海くわい天台宗てんたいしやう眞言宗しんごんしやう弘ひろめ

眞言宗

眞言宗

弘ひろめ

二宗

シツノ權けんを擅ぼしにす權力ヲモツテ一族いちぞく不比等ふひと曾孫そうそん御おん

一族

不比等

曾孫そうそん御おん

腹

人臣じんしん家來けらいノ良房りやうぼう外孫ぐわいそん攝政せつしやう萬機ばんき

攝政

萬機

萬機ばんき

攝行

養子やうし基經もとつね廢いしヤメル御成年ごせいねん巨細こさいとなく大キイ

御成年

巨細

巨細こさいとなく大キイ

關白

ムカシ天皇ムカシヲタスケテ政まつ憂うれへ給たまひ死ナレタコト薨こうじて身分ノ高イ人ノ儒家じゆか

憂へ給ひ

薨じて

儒家じゆか

登用

ヨリ上ゲテ相あひ並ならび一門ノ者天位てんみ

相並び

天位

天位てんみ

攝關

ノ顯職けんしやくに陞のぼり攝政、關白トイフリツ兄弟きやうだい叔姪しゆくてつ排斥はいせき

顯職に陞り

兄弟

叔姪しゆくてつ排斥はいせき

玄孫

其その富とみは皇室くわうしつに過すぎ其ノザイサンハ繁華はんくわ家筋いへすぢ

皇室に過ぎ

繁華

家筋いへすぢ

第十一

朝政の紊亂と武士の興起

朝政

ノ紊亂ぼんらん朝廷てうていノ政治せいぢ武士ぶし興起きうき擅權せんけんの頃ころ

朝政の紊亂

武士の興起

擅權せんけんの頃ころ

朝臣

テ井ル人々ていじん耽ふけり詩歌管絃くわんげん太平たいへい無事むじ

耽り

管絃

太平無事たいへいむじ

在朝

ノ人人ひとびとは公務こうむを怠おこたり朝廷ニツカヘテ私利しり國こく

人人は公務を怠り

私利

私利しり國こく

司の干渉國ヲチサメル役人誇れり。奢侈シヤシの風フウ増長ゾウチャウ。

人心次第じんしんしだいに腐敗ふはい人ノココロガダン。騷亂さうらん後人こうじん。太平たいへいを謳おう。

歌か世ノ中ガヨクオサマツ。増加ぞうか。國庫こくこの收入しうにふ。減少げんせう。流浪らうらうの民たみ。

仕事しごとモナ。盜賊たうとく。蜂起ほうき。武官ぶくわん。微力びりよく。鎮撫ちんぶ。有力いうりよく。從じゆう。

者を養やしなひ。武技ぶぎを練ねり。爪牙つめが。靜謐せいひつを。

圖ける。政權せいけん。武門ぶもんに歸きする。端緒たんちよ。顯あらは。平たいへい。

高望たかもち。上總かすのすけ介すけ。士着しちやくし。將門まさかど。下總しもふさに下くだり。

伯父おぢ。頻しきりに。近國きんこくを侵をかし。偽宮ぎきう。新皇しんくわう。藤ふぢ。

原純友はらのすくとも。伊豫いよ椽じやう。任期にんき満みてども。海賊かいぞく。中國ちゆうごく。

山陰道さんいんどう、山陽道さんやうどう。掠かすめ。都下みやこ。無事むじに馴なれたる。追討つひたう。

貞盛さだもり。追討つひたうの官軍くわんぐん。追捕つひほし使し。誅ちゆうせらる。

天慶てんぎやうの亂らん。平忠常たいらのただつね。房總ぼうさう地方ちほうに據よりて。叛そむ。

けり。勅ちよくを受うく。對馬たいま。壹岐いっき。來寇らいこう。道みち。

長の甥ななが。部下ぶかを勵はげまし。擊退げきたい。

第十二 平安朝の文物

文物ぶんぶつ。紊みだれ。後世こうせい。上古じやうこの世よ。唯口たぐちにて。

語り傳ふ。過ぎざりきカスギナ漢學支那ノ文學支那ノ漢文支那ノ專カらニ表す。草體ノズシ字ハ扁ハ旁ハ案出イダス平假名ナ片假名ナ假名文字ニ簡易ニ宮中ニ納れん。文才ツク智ハ侍カ女ニ紫式部ノ清少納言ノ才女ノ源氏物語ノ著シモツカ假名書ニ平安朝國文ノ模範ノ平安朝時代ノ日本ノ文カ人ム古今和歌集ノ撰リベリツク勅撰リ天皇ノ御申附ヨ初期メ擅權ノ頃マ者輩出ル貴族ノ身分ノ私立學校ヲ設立ル内亂ノ内ノ停トめ。使節ノ派遣ヲ永ク絶エト衰運ヘ榮華ヲ極メ

めたるゼイタク朝臣ノ生活ニ伴ヒ朝廷ニツカヘテ井ル家來ノ嘗テ劣ラざらしめんとしてオトラナイ様ニニ公卿ノ賴道ノ督スるニ當リルニ常ツテ公事ヲ緩フスオホヤケノ事ヲ結ツ講ス善美を極メてクミタテガマゴ宇治。今尙存在シテ今テモマダ殘リ當時に於ケるソノツ建築。繪畫。彫刻。進歩ノ跡。アトカダ貴族ノ邸宅ノ像。佛師ノ顯シ。

高等小學日本歴史字引

第一學年前期用(終)

小學教科書  
67

明治四十五年三月二十日印刷  
明治四十五年三月二十日發行

不許複製

販賣元

定價金參錢

著者 普通學研究會  
發行者 東京市日本橋區大傳馬町二丁目廿二番地  
發行所 東京市下谷區下根岸百〇七番地  
印刷者 大阪市西區阿波座二番町一番地 堀越 幸吉

東京市日本橋區大傳馬町二丁目  
大阪市西區阿波座二番町一番地  
淺見文林堂  
市田昇文館

角筋幡八町屋竹區南大阪  
堂 港文江坂  
筋橋齋心町慶順區南大阪  
堂 柳青中田  
目四町後備區東大阪  
館 文崇谷藤

明治四十五年三月二十日印刷  
 明治四十五年三月二十日發行

定價金參錢

普通學研究會  
 淺見文林堂  
 市田昇文館

發行所 大阪市西區  
 發行所 市田昇文館  
 發行所 大阪市西區

普通學研究會著  
**讀本字引**

普通學研究會著  
**地理歷史字引**

普通學研究會著  
**教科書字引**

普通學研究會著  
**高等讀本字引**

原琢三著  
**說明明圖**

尋常第三學年 高等第一學年  
 尋常第四學年 高等第二學年  
 尋常第五學年 高等女子用  
 尋常第六學年 各前期用

尋常第五學年 高等第一學年  
 尋常第六學年 高等第二學年  
 各前期用

尋常第五學年 高等第一學年  
 尋常第六學年 高等第二學年  
 各前期用

新三學年用 上卷 下卷 合本

兒童用 彩色入折本  
 兒童用折本甲號乙號

各一冊 金參錢  
 郵稅三冊マテ貳錢

各一冊 金參錢  
 郵稅三冊マテ貳錢

各一冊 金參錢  
 郵稅三冊マテ貳錢

定價 金八錢  
 郵稅五冊マテ貳錢

定價 金五錢  
 郵稅五冊マテ貳錢

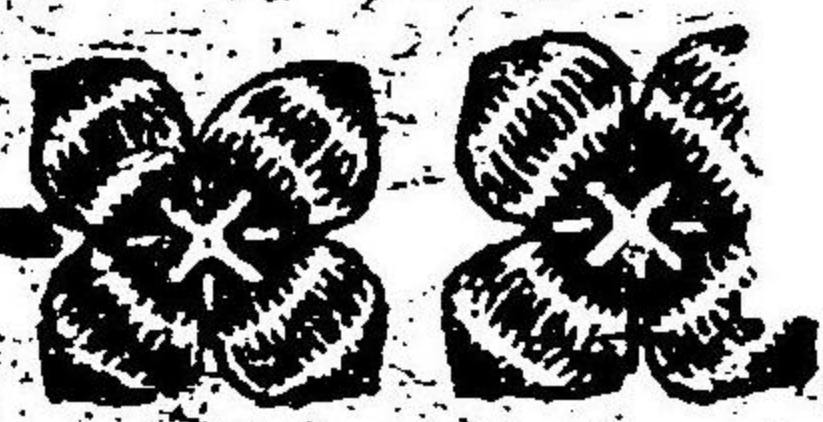
發行所 大阪市西區 市田昇文館



普通學研究會著

尋常  
小學  
地理歷史字引

第五學年前期用



普通學研究會著

# 全學科復習問答

尋常五學年前期用 各一冊  
尋常六學年前期用 拾貳錢  
高等一學年前期用 送料  
高等二學年前期用 四錢

皆さん、今度私方から出しました全學科復習問答は、これまであつた表解とか自修書とかいふものとはちがつて、そこに問ふ人があつて、それに答へるかのやうにおもしろく書いてあります。そして皆さんが、學校で學ばれる學科は、それ／＼もくても、此の書はそのもくても、きかなふやうに、いろいろおもしろい方法で、しぐんであります。そこで此の本を見られたら、いろいろおもしろくて、手をはなすことのない間に、學力が進んで來ます。そんなよりしやうこ、此の本が他の本よりはずぐれてよい所をごらん下さい

普通學研究會著

## 綴方文例

尋常五學年前期用 定價一冊金拾貳錢  
尋常六學年前期用 郵送料金四錢

普通學研究會著

# 尋常地理字引

45. 2. 15

第五學年前期用

普通學研究會著

尋常小學地理字引

第五學年前期用

45. 3. 15  
內夾

尋常小學地理字引 卷一 第五學年前期用

普通研究學會著

第一 大日本帝國

我が東北、東北ノ北ト西南ノ南ト連れるツバ多く。島々より成りシマツマ殊にワケ北海道本島千島ヤ其ノ他ノ島々五島ノ島南部。此の外千島列島列島トハ多クノ島東北端ノ北端南端ノ凡そ面積土地ノ方里一里四方位置アリバ東南西北ノ間太平洋。隔ててアヒダチ對しアヒ日本海。東支那海。互相望むシテ井ル

接近ツクカ露領リヤウ分米國リカメ屬するツク朝鮮半島中ニツキ出テ一方陸ニツツキ三方重に。滿洲。境し。黄海。本部に對す本部ニムカツ四周リマハ氣候。溫和ヤカ雨量雨ノフルアンリ農産物農業ニヨツテ井ル。礦産物山カラホリ出水産物水ノ中テトレ少からずクナイ住民井ル人概ねオホ民族。其の數カズ萬世一系モヒトスヤ忠君愛國君ニ忠クシ國チ富めり。行政上の區分上ノワケカダ三大島三ツノ大全國オモフ殊にワケ三府大阪、東京、京都分ち。府縣廳府廳ヤ北海道廳北海道チオサ置き。樺太廳メラフトチサ八道。古き分ちフルイロ地

○地理第五學年前期用

勢上せいじやう土地ノアリサ最大さいだい大キイモ琉球りゅうきゅう合せ。是等これら加へ。

第三 關東地方 (一)

位置ゐシヨ 東南部とうなんぶ連リつらな奥羽地方あうう臨のぞむ井ルい最ももつと

廣ひろき平野へいや房總半島ぼうそうはんとう突つき出いで。三浦半島みづらはんとう。

北きたに互たがり北きたニト山岳相連リさんかくあひつらな箱根山はこねやま火山くわさん火かチチフフ簞せんゆ

山さん中ちゆうノ山さんノ景色けしき。温泉おんせん地ち中ちゆうカラ湯ゆノヲ多おほく。湧出ゆうしゅつデルデル殊ことに

著名ちゆうめいイ、概おほむねカホ西部せいぶ。北部ほくぶ。山地さんち緩ゆるやかかにシシツツ海うみに

入いる海うみニナガ支流しりゅう川エダ合あせて。其その分ぶん流りゅうなるなるレレソソノノ川カ江え戸と川カ。東とう

京きやう灣わん。注そぐぐココハハ荒あ川か。那な須す山さん。附ふ近きんチチカカ利り根ね川がノ下か流りゅう利り根ね川がノ

川カ湖こ沼せうミミツツササミミ其そノ水みづ相あ連ひリひソソノ水みづガオオダダガ水すい運うんを助たく物ものチチハハココア

助すけケル土地肥こえて出で来きル土地ちチイイフ農業のうぎやう。盛さかんんに行おこなはれ。米こめ・麥むぎ等とう

養やう蠶ざん業ぎやうカフフココチチ生せい絲いとカカヒヒココノママ織おり物もの。那な賀が川が。流りゅう域ぎ川カノナナガガレレ漁ぎよ

業ぎやう魚いチチト一般いっぱんイイツツタ海岸地方かいがんちほうに行おこなはれ。東とう岸がん東とうノ漁ぎよ獲くわくササカカナナノト

交通かうたうノ便べんユユキキノノ頗すこる大おほソソ備そなりトトノヒヒ中心ちゆうしんナナカカ四し方ほうに通つうずる方かた

ニトホニトホツ横よこ濱はま。諸しよ方ほうアアチチララ達たつする航かう路ろノミミチチ重おもなる。東とう海かい道だう線せん

中央線ちゆうあうせん。東とう北ほく線せん。行ぎやう政せい上じやうルル上じやうカカラ西せいに當あたれる。千ち葉えい縣けん。房ぼう

○地理第五學年前期用

總半島。北部

第三 關東地方(二)

武藏一部。伊豆一部。小笠原島。東京灣。西

北岸。多摩川の上流。及べる地方。首府。荒川

の下流。隅田川。五方里。人口。凡そ都會

宮城。市の中央。市内。諸官省。帝國議事

堂。東京府廳。近衛師團。帝國議事

司令部。東京帝國大學。數多。帝室博物館。教

育・學問。機關よく備り。書籍。新聞等。發行

亦極めて。其の他。大小の銀行。商店。工場

の類。夥しく。商工業。名高き。社寺。靖國

神社。淺草寺。公園。日比谷。上野。道路。電車

鐵道。水道。飲料水を供す。八王寺。絹

織物。相模灣。南方。更に。小笠原諸島。屬す

伊豆七島中。大島。八丈島。父島。氣候。甚

だ。暖く。神奈川縣。相模全部。武藏一部

分面し、**縣廳**臨める。咽喉ノ人口大開港場。大キナ貿易  
 輸出品外國ニウリ重なる。生絲。輸入品外國カラ買。鐵材鐵  
 製品。綿。砂糖。横須賀。軍港。造船所。鑛倉。安房全  
 部。安房ノ國上總全部。下總大部。山岳相連れど  
 も。山々がオタガヒニ利根川。其の北を限る。東北隅ノスミ  
 所在地。江戸川。野田。醬油。産地。埼玉縣。殆ど  
 全く荒川ノ流域。荒川ノナガレ大部分。下流。浦和町  
 小田原。條氏ノチツタ所。歴史上。有名カイ千葉縣。安房全  
 部。安房ノ國上總全部。下總大部。山岳相連れど

名**北方**。大宮町ノ鐵道交通。要地なり。川越町ノ  
 絹織物。群馬縣。上野全部。縣内山多く。東南部。一  
 帶ノ平地。前橋市ノ沿岸。桐生所ノ高崎。信越  
 線。信濃ノ國カラ越後。奇景。越え。向ふ。栃木縣。下野。東に  
 接し。東ニロキ。西北部。山岳多けれども。略中央。山  
 師團司令部。所在。日光。社殿。壯麗。山  
 中山ノ景色甚だよし。足尾銅山。西南隅。西、南  
 足利町ノ産地。知らる。茨木縣。下總一部。常陸

○地理第五學年前期用

九

全部。北に連り。南部。概ね。聳ゆ。高クツキ著しく。人目を引く。有名。常磐公園。日本三公園ノ

第四 奥羽地方(一)

位置。本州。東北部。關東地方。太平洋に面し。津輕海峽。北海道本島。對す。地勢。走れる。山脈。是即ち。磐梯山。岩手山。北上山脈。互れる。細長き。二川。其中。流る。聳え。横ざり。是等。川のほとり。稍。廣き平野

あり。二大半島。抱く。太平洋岸。中。部。突出。其の以北の沿岸。小出入に富み。日本海岸。出入少く。僅かに。土地。割合。住民少く。開墾せられざる所。所。原野。牧畜。盛に行はれ。平野。阿武隈川。流域。養蠶業。著れ。能代川。林業。二條の鐵道。相合し。進みて。陸奥灣の岸に達し。一周す。海上。盛



ならずサカシ西岸せいがん日本海にっぽんかいに面するめん日本海にっぽんかい冬季とうきフエノ風波ふうは。

防げらるさまた行政上ぎやうせいじやう六縣ろくけん區分くぶんカチ

### 第五 奥羽地方(二)

福島縣ふくしまけん關東地方くわんとちほうに接しせつ關東地方くわんとちほうニツ 奥羽あうの入口いりぐち奥羽あうへハ當あた。

阿武隈山脈あぶくまさんみやく三部さんぶアツノ流域りゆういき川かに臨みのぞカツテ所在地しよざい

附近ふじん羽は二重ふたへ絹ぬいノオリモ 産すさんイダ 西部せいぶ阿賀川あががは沿岸えんがん。

漆器しやくき有名いうめい名なカイ 若松わかまつ市しノ水源すゐげん川がはノミ 磐梯山いはだいさん 聳ゆそび面しめんムヒテ

茨城縣いばらきけん石炭せきたん宮城縣みやぎけん磐城いはき一部いぶ磐城いはきノ國くにノ陸前りくぜん大部たいぶノリクゼン

ア下流か川りうシ 及およべる。縣廳けんちやうの所在地しよざいアケンチヤウノ 仙臺せんたい。奥羽あう第

一の都會いっのとくわいノニギヤカナ町まち第一師團司令部だいいちしだんしんれいぶ。仙臺平せんたいひら織物おりものノ名なマヘ東

北ほく。松島灣まつしまわん灣内わんないノウチヲ 數多あまたの島嶼しまうシマツマ 散點さんてんしトチラバ

井テい青松せいしよう青々せいせいタル松まつ 載いたさ。景色けしき甚はなだ。岩手縣いわてけん陸中りくちゆう大部たいぶノリクゼン

陸奥むつ一部いぶノ一部分いぶ大部分たいぶ。流域りゆういきに屬すぞく。盛さかんに。釜石かまいし。附近ふじん

チカ我わが國くに。鐵山てつざん。著ある名高な青森縣あおもりけん。北端ほくたんに當あたれる地方ちほう

北ノ端きたニアタ 三方さんぱう海うみに面すめん三方さんぱうノ海うみニム 陸奥灣むつわん。西南隅せいなんぐうノスミ 肝かん

要えう大切たいせつ聯絡點れんらくてんトココロ 東京とうきやうを距さる東京とうきやうチハナ 一哩いちり我國わがくにノ十四町じよしよ四海軍かいかい

の要港海軍大灣の東北隅青森の西南に當り。

弘前人口三萬餘、第八師團司令部師團司令部所在地附近

クチカ多秋田縣。奥羽山脈を挟み。岩手縣と相背手。

縣トセナカテ。其の地。概ねカダ御物。能代二川の流域に屬す

御物川、能代川ニツノリ。秋田人口ハオホカダ。萬ホ。木材の集散地集りテマダサノ

所。上流川ノ産出。著る。着材材木ノツ。冬季冬ノキ運材ハコイモクチ尙

鑛山多くわうざんおほくして。マダ鑛山ガ産額さんかくルタカカ。於てはテハ我が國。山形

縣。羽前全部うぜんぜんぶノゼンタイ。羽後一部うごいちぶ。アアノ國ノ挟み。宮城縣と相

背そむき。ミヤギケントセナカ全部ぜんぶ。概ね。最上川もがみの流域りゅういき。

上流じやうりゅうの平野。山形。米澤よねざはの二都會にとくわい。山形市ト米澤市トノ二縣廳けんちやうの

所在地しよざい。縣廳けんちやうノア絹織物きぬおりものの産地さんち。來ルキヌ織物ノ出ト酒田港さかた。

### 第六 中部地方 (一)

位置ち。中部地方ちゆうぶ。略りやく。本州ほんしゆうの中部ちゆうぶにあり。本州ほんしゆうノマンナカ

奥羽地方あうう。關東地方くわんと。連りつらな。西にしは近畿地方きんきに續つき。

南みなみと北きた。海うみに面めんす。地勢ちせい。土地ちちノア。本州ほんしゆう中ちゆう。最もも。高かう

峻しゆん。山脈さんみやく多おほし。中央部ちゆうあう。略りやく。南北なんぼくに亘わたれる。

山脈。飛驒山脈。其の西。飛驒高地高地トハ高イ土地。東南。木曾。赤石の二山脈相並ぶ木曾山脈ト赤石山脈ト。是等。東方ノカタ富士火山脈。南北に走り。數多の火山タクサンノ火山。其の中に聳ゆ。美しき。圓錐形マルクテサキ。凡そ。達すトド。東境とうきやうに東ノサ噴煙えん。ケムリヲ常つねに盛さかなる。中部。西部。火山として有名なり。此の地方。大河多し大キナ川。木曾川。西南ニシミ向ひ。天龍川。木曾山脈。赤石山脈。飛驒山脈以東ヒダ山脈カ山。間を流れて山ノアヒダ。凡そ。百里に達しトド。我國著名の

長流我國テ名高。富士川。大井川。一般イツタ。山地多けれどとも。ヤマチが多海岸ウミ。所所に平野ありトコロドコロ。其の最も著しきもの其ノ一バン名。信濃川。下流に沿へる川シモノ。越後平野。濃尾平野。太平洋岸。伊豆半島。相模灣。西に三河灣。及び伊勢灣あり。此の間に突出すコノアヒダニ。日本海岸。抱き。東北に佐渡島を望むヒガシカタニ佐渡。西部。出入に富むテハイリ。多く米を産すタクサン。殊ことに有名なりケテ名。高上流地方川カミ。養蠶業盛に行はれカヒコチカフ事。木材の産

出シツ ザイモク ナイダス 漁業ギョウ ルコト 伊豆半島イツシュハン 近海キンカイ ノチカク 鯉カッ 鰯イハシ 高山急流カウゼンキウリウ

高タカイ山ヤマ、流カウ交通カウツウの便ベンを妨サマタぐる所ところ ユキカヨヒノ便チ 多オホかりしカ カホ

鐵道テツドウ開通カイツウして テツダウガ 往來ワウライ ユキカ 重オモなる。南部ナンブ アナムノ 太平タイヘイ

洋岸ヤウガン ヘル海岸 太平洋タイヘイ 東海道線トウカイダウゼン 山間サンカンをツウ通ツウずる 山ノ中チ 中央線チュウオウゼン 其ソ

の他タ。信越線シンエツゼン 信濃ノ國カラ越 日本海ニッポンカイに面めんする 日本海ニ 冬季トウキ 冬ノア

積雪セキセツ深フカく ユキガダク 海上カイヘウ波荒ナミアラく。妨サマタげ。行政上ギョウセイジョウ 政治上 九縣クケン

九クツノ 静岡シツジウ。愛知アイチ。富山トヤマ。石川イシカハ。福井フクイ。内地ナイチ。長野ナガノ。山梨ヤマナシ。

尋常小學地理字引 卷一 第五學年前期用(終)

普通學研究會著

尋常小學 日本歷史字引

第五學年前期用

尋常小學日本歴史字引 卷一 第五學年前期用

普通學研究會著

第一 天照大神

天皇陛下。遠き御先祖。御威徳。極めて伊勢。皇大神宮。奉  
 ぬきことと。あたかも天日。伊勢。皇大神宮。奉  
 れる宮。御孫。瓊瓊杵尊をして。降し給ふ。子  
 孫。君。汝。皇孫。ゆいて。治め。寶祚。さか  
 へまさん。天壤。きはまりなかるべし。仰

せいの萬世。建國のもとし。國ヲテラレ。鏡。劍。授け。三種  
 の神器。我を見るが如くせよ。御代代。皇位  
 御し。奉。此の後。經。以前

第二 神武天皇

天皇の大業。人皇第一代。君。甚だ大。東  
 の方の國。未だ。開けずして。思召し。御  
 ば。之を平。人民。安んぜん。思召し。御  
 兄。兵をひき。日向。數年の間。或は。強

き敵。戦ひ。失ひ。分入り。やうやく。道をひらき。  
 進み給ふ。平定。天皇即位。やがて大和。  
 定め。禮。昔。紀元。元年。紀元節。  
 當る。

第三 日本武尊

かく大和地方。平げ給ひ。其の後。御數代。遠  
 き國々。なほ。命に従はざるもの。御代。四道  
 將軍。つかはし。遠方。御威徳。

仰ぐ。至る。然るに。景行天皇。叛き。其の勢。熾  
 なりき。南部。居たる。種族。皇子。つかは  
 し。討たしめ。御年。僅かに。仰せに従ひ。誅  
 ス。ただち。少女。身をかへて。近づき。殺。其  
 の後。東國。蝦夷叛き。更に。尊をして。征伐  
 伊勢に至り。皇大神宮。拜し。神劔。奉じて。  
 駿河に至り。賊。欺き。野原。みちびき。道。四  
 方。焼き立て。弑し奉らん。草を薙ぎ。滅し給ひ。

○歴史第五學年前期用

草薙劍。ことごとく一ツモノ御歸路オカヘ薨シ身分ノ高キ人ノ御  
勳オンテ皆平ミナタぎ。皇威クワウ天皇ノ御益キ々。及び。即ツき。

第四 神功皇后

仲哀チウアイ天皇。皇后。御代。熊襲クマソ九州地方ニ住ン叛ソビき。此コの頃。朝  
鮮セン。三國サンクニ之ノを。三韓サンカンとよべり三韓ト東南部トウナンブ東、南最モトもイチ

其ソの勢シキ。強ツヨかりきツツヨカ。服從フクジユウガフ御親征ミツシンニシテ。從シタガひ。軍

中チウノイイクササまマしシませセしがガ。從シタガへナばバ從ナララババ。おオのノづヅからカラシシゼ

平ヘイがガんンと思シ召メしシきキ。崩ホウじジ天皇ノオカ  
トオモハレタ。たまタまたマたまマ。時トキノ

コ御懷妊クワイニん中チウオミモチモチはハかりリナソウダダンン討ウチちチ給タマふフ新羅王シンラウ。皇威クワウ

天皇ノ御盛セキ。大オホいにニソウウ恐オソれレ。出降イテリリケケルル。太陽タイヤウ。河水カスイ流ナガルル。

叛ソビきキ奉タテらラじジシシママススマイマイ。ちチかカひヒ。凱旋ガイセンの後ノチカカヘヘララレレタタ後ノチ生ウマ

れ給タマふフララママレレ。學問ガクモン。技藝ギゲイヲヲササススココぶブルルソソウウササレレばバ種シユ々々

イロ貢物ミツモノ。學者ガクシヤ。工人コウジンニシヨクシヨク渡ワタりリ進歩シンポココトト傳來デンライテテクルル

第五 仁徳天皇

應神オウジン天皇。御子ミコ。仁慈ニンジアハレミミ常ツネにニフダダ人民ジンミン。いたイたタはハりリカカハハユユ

御代ミヨ。飢饉キキん年ネンガガツツルルケケテテココクク苦クしシむム。村村ムラムラ。かカまマどドのノ煙ケヒ。少シウきキ

を見てノチ見テ深く大ッあはれみ給ひカハユサウニオモハレ租税モカカリ免じ  
 ヌル宮殿キョウテンノゴテ荒れ損ずるをもコハレテイ御心オンココロやがてチニ豊ホウ  
 年ネンヨク出来タ年ヨクモツナドノ皆みなゆたか子ミシナカモチ或日あるひ立上たのれる。すでにハ富ト  
 めりユタカニ喜よろこばせ。なほマダソヘ數年すうねんの後のち五六年ごねん新あらたにアタラ造つくる  
 かくと聞ききつたへたるカヨウデアルト勇いさみ。はせ集あつまりイソイデ  
 日夜にちや工事こうじフシはげみしかばハタラクツトメタカラたちまぢ成なれりグ  
ニ出勸農くわんのう農業ノコトノコト河かをりがち川カチ堤つつみを築きづきコツツミチハ水害すゐがいを防よせ  
来タフセギ溝みぞを開ひらき田ニ水チヤル利益りえき。其その業げを樂たのしみ。天下てんか

中國ノ治れり。

第六 物部氏と蘇我氏

職業しよくげふツタ仕事ツタシゴト昔むかし上かみは。つかさどる行ツテ下しもは。機はたを織をり。  
 衣ころもを縫ぬふチヌフ至いたる。親おやの業げふ親シテ井イ習ならはし。家家いへいへ。定さだま  
 れりキマツ政治せいぢにあづかるもの政治チタスケ武内宿禰たけうちすくねの子こ  
 孫そん武内宿禰たけうちすくねノ加くはれり。紀元きげん國くにノハ一千二百年代いっせんにひゃくねんだいの初はじ御代みよに  
 至いたりナツテ兩氏りやうしノ家いへ政治せいぢにあづかり政治ニカン兩家りやうけ。勢いきほひを爭あらし  
 ふ。たまたまヤツノ時ときチ百濟王ひやくせいおう。佛像ぶつざう木きヤ金かねニヤザミタルホトケノスガタタ獻けんじたりアサシ



祭る。可否カヒヨイカフ。群臣ぐんしんノケライイ問ひ給ふ。古よりいにしへムカシムカシ神かみサマサマはげしくなりぬハゲシクうま馬子うまこ。おのおのこころざし志こころざし父ちちノカ相あひ争ひ。遂つひにトウ攻滅せり。無道むだうの行おこなひ道みちニハツレ

第七 聖德太子

聰明そつめいカシコカシコ御孫おんまご。皇太子くわうたいし。いとけなきちヒ才智さいち。すぐタチエヤハ。れマサレ長ずるに及びてはオホキクナル。一時いちじトイツトイツ聞分け。深くふか學問がくもんを修め給へりサガクモンチナ。女帝にょてい子こサマサマ天ましませしかばセラン政治せいぢ。三韓さんかん支那しなの長所ちやうしよ。今ノ朝鮮しんせん支那しな利益りえき。新あらたに。種種しゆじゆ

の法則ほふそくイロイロナキン中なかにもチニモ十七じち條じゆ。攝政せつしやう天子てんしニカハリテ政事せいじ御ご

肖像せうざうガタガタ使つかひを遣はしツテ留學生りうがくせい學問がくもんチスルタメニ外國ヘヤル人送り給ひタマきク

リニナツタやうやくしげくニナツテ三韓さんかんを経てホツテ渡りワタ。

學問がくもん・技藝ぎぎガクモンヤテワザただちにニスグ本國ほんこく。益々ますます進歩しんぽ。佛敎ぶつこうを

信しんじヘチシンシヤカノガシテラ寺てらを建て。最もつとも有名いふめいノ中チノテモ四天王寺。大やま

和と興おこりニナリ建築けんちく家ナドチタ彫刻モホリ繪畫えいざ事エノ技術ぎゆワザ之にと

もなひてトモニ著いちじゆしくヘテ進すすみたりンダ

第八 天智天皇と藤原鎌足

蘇我馬子。蝦夷。入鹿。無道の行道甚だ。多かりき

オホカ 殊にワケ 皇極天皇。おのが自分好める皇族チスキナ天皇ノ御

御位に即け奉らんがために御位ニオツケ申スタメニ 御子孫を滅し御子

ゴナタ 遂には。皇威をも 天皇ノ御井クワウウ 恐れ。いきどほりハラテ 朝廷

の御ために 天皇様ノ御政治チ ナサルタメニ 誅せんとす コロサウ 中大兄皇子。

或時。蹴鞠の遊び今テイフ、フ侍したりソバニ 拾ひ。ひざま

づきてスハとささげ アゲ受け給ひぬウケト 親しみヨク相はか

りて サウダ 大化の改新。御弟。助け奉り。改め。年號。建

てて コシラ あたかもウダ當れり。

第九 天智天皇と藤原鎌足 (つづき)

大化改新の政治 大化トイフ年ニ新シ 大改革 大キナカ 富強 勢ガツヨウテ多

モテル 次第にダント 土地。ほしいままに フトホリニ 習はし。皆

一様に。天下をたもち 國中チ オサメ 他に先んじて ホカノモノノ 孝徳

天皇。崩じ給ひニナリ 先帝 前ノ天皇 再び 主としてニ オモ 政治

にあづかり 政治ノコトニ 三韓の離叛 三韓ガワガ國ニ 起れり。其の

一。新羅。我に叛き。百濟。高麗。亡び。蝦夷。朝廷の

威光に從ひ。しばしばナンヤ相争ひ。軍隊多クノ遣し。鎮  
 めしめ唐其頃今ノ支那助け。滅せり。海外勞するハタラカ  
 不利ナキ見給ひ。引上げ。國名御征伐後サレタノチ舟  
 師をひきゐる。遠く。北海道。服從ガフ位に即き。律  
 令の制定。法律ヤ命令ノ命じてケテ政治ノ方法セイジノ始め。種  
 種の規則。改正アラタメ中頃。完成デアガル。根本オホク勤功  
 病重きに至り。親ら大織官位ノ授け。姓  
 賜へり。後の世。

第十 聖武天皇

奈良京文武天皇。御年若く。崩じ給ひ。皇子。御  
 幼少御母。位に即き。此の御代。都。おほむね御  
 代ごとくに。天皇様ノオン。宮殿。簡易ルナ然るに。交通繁  
 シキヤガ開け來りしかば。佛敎。甚だ。長じて。國ごと  
 そ。故に。奈良時代。佛敎。甚だ。長じて。國ごと  
 に。國分寺。建て。宏大。東大寺。營み。安置  
 ル設け。孤兒。慈善事業。ナリ助ケル事業

第十一 和氣清麻呂

道を開き。池溝を作る。人民の便利。名僧名高イ無  
 道の僧道ニハツレ出でてぬ。仕へ。重く。遂に。法王僧ノ一バン上  
 威勢ホヒキ御告。いつはりウソチ皇位天皇ノ位即かしめ。天下大  
 平世ノ中ガヨク奏する天皇ニ申喜び。御心。更にアラタメテ神の教を受  
 けしめ給ひ神様ノオサシツチ語りて曰く。ハナシテイ。高き官位高  
 ヤクト井歸り。開闢以來國ガヒラケ君臣君ト臣民トの分君ト臣民ト臣を以て君  
 とすること家來ヲモツテ未だ之未ダあらずマダアツタ。天日嗣天皇天皇

緒皇太早く。除くべしオホハはばかるエンリヨス。奏上天皇ニ申怒  
 りオコ大隅今ノ九州ノ幸。禍ナシ免れ免レ忠烈忠義召還サヘされヨビモド

第十二 桓武天皇

御曾孫ヒマ紀元。山河美はしく山河ノケシキ。便利。都。平安  
 京京都ノ御代代。ましまし井其の中。平安時代ツクオサマ  
 征夷大將軍エツチセイイバツス討たしめ。阿倍比羅夫。征伐。  
 しばしば叛くソモ何ソムク始どホト平定ウチタヒ。唐に渡り支那ニ歸  
 朝テウの後ノチ御數代五六すコぶる大事變ヘン

### 第十三 菅原道真

先祖。大功。大キナテガラあらはれ。世ノ中ニ此の氏。藤原一門。御幼少。

攝政。天皇ニ代ツテ政治スル例。殊ニワケ經しめ。關白。天皇ナタスケテスベテノ

尤モ高始め。心のまま。自分ノスキ。其の一門。藤原皇族。天皇ノオ。勢力

ホヒかかる時。コノヤウ。學者。長じレス。行正しき。宇多天皇。

重く。任用。チヒかねて。デカラ。強大。大ソウ。思召。ガヘ。薨ぜし後。死ナ

カラ。勢を分たん。イキホヒ。仁慈。シヒロク。人ヲ愛。寒夜。冬ノサム。民の苦を

察し。人民ノクルシミ。御衣。御志。右大臣。年も長け。年モ大キ。才學

御信任。信用シテ用ヒ。厚く。不平に堪へず。オモシロク。謀りて

相談。讒したり。ワルイ。官を降し。位ヲサ。遷されぬ。ナガサ。むなしく

常に。身をつつし。み。行ヒテ。正門外。門ノ。嘗て。コレマ。捧げて。ダイ

君恩。天皇ノ。かたじけなき。アイ。詩を作り。心を述べ。心ヲ言ヒ

かくて。コノヤウ。薨じたり。高き。官位。高イ。ヤクト。天満天神。

### 第十四 朝臣の榮華と武士の起り

朝臣の榮華。朝廷ニツカヘテ。井。勢力。ホヒ。次第。地位。ナド。總べて。占

むる。ニギリ。是等。漸く。政治に怠り。政治ヲスルコ。歌舞宴樂

ウタフタリ、マウタリシテ **ふけり** 事バカリニ **すて** ハヤ **薄らぎ** オトロ **地** サカモリナシテ

**方の政治** アチラコチラノ **才力** チカエト **志** 考ヘ **京都に得ざる** 京都テ

**いおもむき** テ **武士** ラサム **朝威を輕んじ** 天皇ノゴ **謀叛** ソム

**東國** 關東 **西國** 九州 **著しき** 名高 **軍備もゆるみ** イクサノ **武官** ミナ

**用をなさず** ヤクニ **討平げ** ツラタ **心にもかけず** ケナイ **もつばら**

**己が榮華を極めたり** 自分ノオ **貴族** 身分ノ高 **其の志** ココロ

**を得て** 自分ノ思フ通 **外孫** 自分ノム **繁榮** サカ **さしも** ガニ **英明** エイメイ

**即位** 位ニ **衰へ** オシ **皇女** クワウ **縁薄かりしか** エンガ **ば** カタ **好ま** この

**ざりき** **權勢** エライ **はげみ** ヨク **御父** オン **政** マツリ **ゆだね** マカ **位を**

**譲り** ユツ **院中** テカラ 居ラ レ ル 御所 ノ 中

尋常小學日本歴史字引 卷壹 第五學年前期用(終)

小學教科書  
66

明治四十五年三月十日印刷  
明治四十五年三月廿一日發行

定價金參錢

不許複製

販賣元

著者 普通學研究會  
 發行者 東京市下谷區下根岸百〇七番地 市田元藏  
 發行所 東京市日本橋區大傳馬町二丁目廿二番地 吉  
 印刷者 大阪市西區阿波座二番町一番地 堀越幸  
 東京市日本橋區大傳馬町二丁目  
 大阪市西區阿波座二番町一番地  
 淺見文林堂  
 市田昇文館

大 市南區竹屋町八幡筋角 賣捌所 坂江文港堂  
 大 市南區順慶町心齋橋筋 賣捌所 田中青柳堂  
 大 市東區備後町四丁目 賣捌所 藤谷崇文館

明治四十五年三月十五日印刷  
 明治四十五年三月十五日發行

定價金參錢

普通學研究會  
 發行所  
 東京市日本橋區  
 大板市西區阿波

普通學研究會  
 發行所  
 東京市日本橋區  
 大板市西區阿波

販賣元

東京市日本橋區  
 大板市西區阿波

淺見文林堂  
 市田昇文館

角橋文堂  
 青柳堂  
 崇文館

普通學研究會著

讀本字引

普通學研究會著

地理歷史字引

普通學研究會著

教科書字引

普通學研究會著

高等讀本字引

普通學研究會著

歷史年代史

原孫三著

說明圖

尋常第三學年 尋常第四學年 尋常第五學年 尋常第六學年	高等第一學年 高等第二學年 高等女子 各前期用	各一冊 郵稅三冊 金參錢	尋常第五學年 尋常第六學年	高等第一學年 高等第二學年 各前期用	各一冊 郵稅三冊 金參錢	新三學年用 上卷 下卷 合本	兒童用 彩色人折本	兒童用 折本甲號乙號
各前期用	各前期用	各前期用	各前期用	各前期用	各前期用	各前期用	各前期用	各前期用
各一冊 郵稅五冊 金貳錢	各一冊 郵稅五冊 金貳錢	各一冊 郵稅五冊 金貳錢	各一冊 郵稅五冊 金貳錢	各一冊 郵稅五冊 金貳錢	各一冊 郵稅五冊 金貳錢	各一冊 郵稅五冊 金貳錢	各一冊 郵稅五冊 金貳錢	各一冊 郵稅五冊 金貳錢

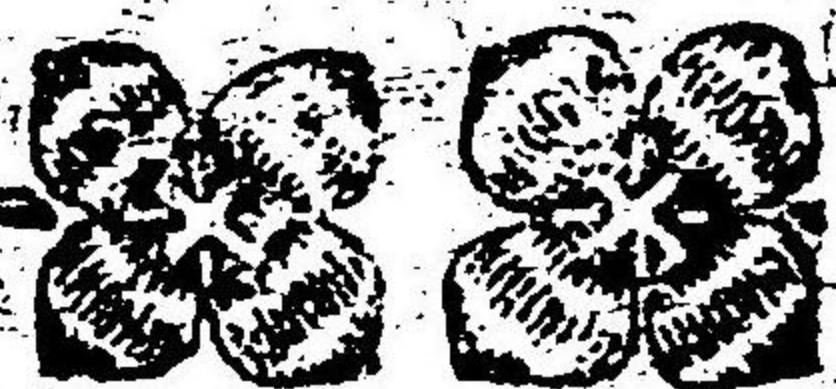
發行所 大阪市西區阿波 市田昇文館



普通學研究會著

尋常  
小學地理歷史字引

第六學年前期用



普通學研究會著

# 全學科復習問答

尋常五學年前期用	各一冊
尋常六學年前期用	拾貳錢
高等一學年前期用	送
高等二學年前期用	四錢

皆さん、今度私方から出しました全學科復習問答は、これまであつた表解とか自修書とかいふものとはちがつて、そこに問ふ人があつて、それには答へるかのやうにおもしろく書いてあります。そして皆さんが、學校で學ばれる學科は、それくもくてもおもしろい方法で、此の書はそのもくても、此の本を見られたら、いろいろおもしろい方法で、此の本が他の本よりはずぐれて、力が進んで來ます。らんよりしやうこ、此の本が他の本よりはずぐれて、い所をござらん下さい。

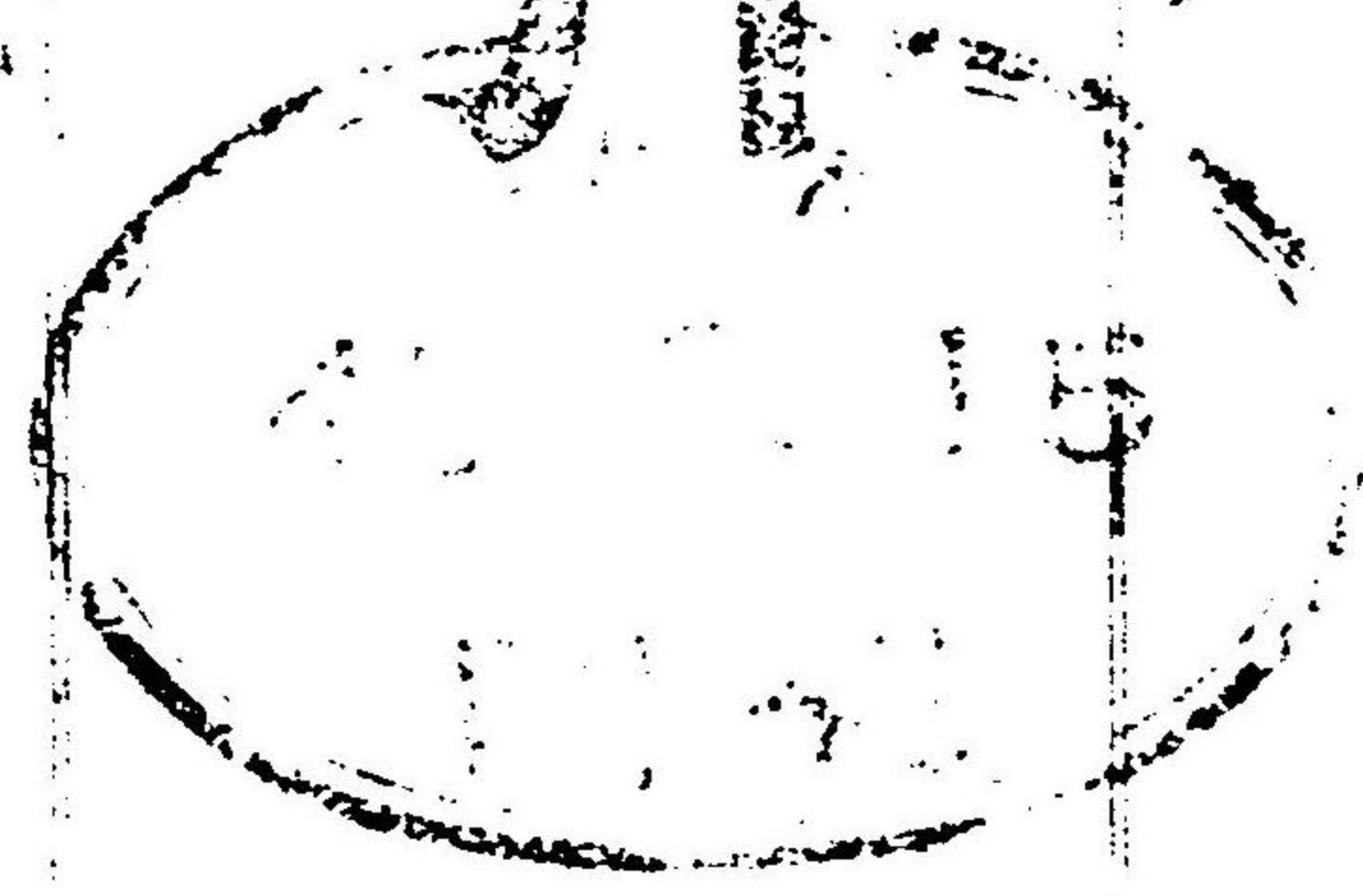
普通學研究會著

## 綴方文例

尋常五學年前期用	定價一冊金拾貳錢
尋常六學年前期用	郵送料金四錢

普通學研究會著

# 尋常地理字引



第六學年前期用

普通學研究會著

尋常小學地理字引

第六學年前期用

45. 3. 15

內夾

尋常小學地理字引 卷二 第六學年前期用

普通學研究會著

第一 四國地方(一)

四國島。其の附近チヒサイ島小島とより成りトカラ出來瀬戸内

海。隔ててアヒダチ中國地方山陰道、山陽道對しムカ紀伊半島。

太平洋に面し太平洋ニ相望むムカヒ東西。脈中山脈ノ高峯聳

ゆタカイ峯ガツ概ねガイ發して。吉野川。全島。唯諸川の下

流タマクサノ之を見シモノ方るのみコレヲ見ル出入少シヨクニからず出入ガ少ナ

最も著るモットモ産業セウダリ沿へる。藍。栽培ツグケテ東

北部。麥稈ムギワラ眞田マギワラ中部以西中ノホドカラ近海チカク到る

所ユケバ行水産物海カラト富みタクサ殊カクにク鯉・鯨。漁獵魚類ヲト

海濱ウミニ製鹽業鹽ヲ製スル業未だ普アマからずマダユキトド陸上。交通

沿岸キシ港津ミナト頗るオソ盛。行政上政治チ相接し

てオタガヒニ占め。背セきてセナカアハ連るツツカナ

第二 四國地方(二)

流域リウキ大部分ダイブ以南イナンの地チ河口。縣廳。所在

地ちアルトアルト汽船きせん。往來わうらい頻繁ひんぱん。薩摩さつま撫養むや名産地なさんち。地ちトコトコ著あれヨク人ニ

鳴門なると海峽かいけつ。當りあた。潮流てうりうシホシホ甚はなはだきふ急きふなりハヤイ。香川かがは縣けん。接せつ

しシツツツツ面めんすム井カルツ北岸ほくがん。要津えうしんに當りあた。屋島いせ源平げんへいノタカカ所望のぞ

み。控ひかふ。師團しだん司令部しやうめいぶ。愛媛えひめ縣けん。西端せいたんハシハシノ佐田た岬さき。豊ほう

豫海峽よかいけつを挾はさむ。阿波あノ海チハサム。所在しよざい地ちコロト近傍ぼうクニ温泉おんせん出でル湯

山中さんちゆう。高知かうち縣けん。背そむき。縣下けんか一いっ般ぱん紙業しぎやう。製紙せいし業ぎやう。紙しヲ製ス鰹節せつ

第三 九州地方 (一)

本州ほんしゆう・四國しこく。其そノ屬島じゆう。琉球りゅうきゆう列島れつたう。列島れつたうトハタクサンノ島々ガ

脈中みやくちゆう。山脈さんみやくノ高峯かうほう。少すくなからずスクナイ霧島きりしま山やま。概おほねがイ是等これら。

山さん中ちゆうに發し山ノ中カ大淀川おほよどがは。下流か地方ちゆうノ肥沃ひやく。平野へい

あり。平野へいガアルシタ島嶼しま。西せい部ぶ。島原しまはら半島はんたう。突出とつしゆつし天

草島くさじま。相對あひしアツテ井カヒ扼しカ。薩摩さつま。二半島にはんたうノ其間ま。抱いだ

く。數多あまたノ散布さんぷし西北せい。壹岐いさき。甘藷かんしよノ裁培さいばい。遠とほ

行おこなはれ。中ちゆう部ぶ以い南なん。馬うまノ飼養しやうシナフコト頗る盛。遠とほ

賀川が流りう域いき。遠賀とんが川がノナガレ。産額さんかく。總そう産額さんかく。過半かはんを占め

上ナカバ以メ金きんノ産地ち。近海きんかい。鰹かつ節せつ・鰻うなぎ。九州きゆうたう島しま。北端ほくたんノ門

司に起り門司カラハ達す。幹線モトニナ支線枝ノ様ニワカ長崎線。

海上の交通・北部・沿岸。最も盛モサカ石炭。輸出外國ニウ

行政上政治上之を分つ。福岡縣。中央ナカ位し。大分縣

東南。佐賀縣。長崎縣。西に接し西ニツ島島。熊本・宮

崎。相背きてアハセニナ中部に位す中ホド鹿兒島縣。大

隅。薩摩。散布チアラバツ諸島シマ沖繩縣。琉球列島。

第四 九州地方 (二)

日本海・瀬戸内海。有明海に面しニアリ所々トコロ方

面ムカツテ福岡。所在地アルト九州大學學校ノ名大學ハ最モ亦此の

所トコロにありマタ博多ハカタ織オリ名産名高イ下關海峽シノセキに

臨める下關海峽ニ門司。咽喉ノドクビに當りニアタリ小倉コクラ官設製鐵

所シヨ東南。菅原道真天神様トイ祀れる。筑後川

の下流筑後川ノ臨める。久留米クヰミ緋ヒ所在地アルト三池炭坑

三池トイフトトコニアツテ輸出外國ニウ西に連り。有明海。臨むムカツテ

西部。有田アリタ陶器タウキ壹岐・對馬等。島嶼タクサン出入ムカツテ

縣廳。西南部に位しニアリ人口カズ凡そオホ有名名高開港

場ボウエキナスルミナト朝鮮海峡。造船所フ子ヲコシヲヘル所。軍港。隔ヘダててアヒダチ相

望ノゾみアツテ海軍の要港ナミナト。相對アヒタイす。東部。互ワタりて。山

岳重疊ガクチヨウテム山ガカサナ阿蘇山ニ活火山テ今サカン所在地コアルト熊本。城内シ

師團司令部シダンチサ西南。天草島。無焰炭ケムリノ少産す

接セツしてイテツ面めんし。東北に突出トツシヨツヒガシキタノ方ニ灣わんに臨のぞめる

附近フキンカクノ別府温泉。多く。疊表。宇佐。八幡宮僧道鏡ガ

る。乏とほし。内地ないち縣チ方ナ未墾みこんの原野げんやマダヒサカレチ大淀川おほよどが所在しよざい

地。宮崎。鹿兒島縣。九州南部。二半島。數多の島嶼

方。大島。紬つむぎ織物くろの産を以て著あはる。黒砂糖コトデ名高イノデキル五十

有餘いゆうマリ最もつとも大なりだいなリソノ中チデモ一いつ氣候きこうリツコ甚はなはだ暖あたたクイ甘藷かんしよ

南部なんぶニシ南要津えうしん船ダイツナ琉球りゅうきゅう餅もち。名産めいさん産物さんぶつ

第五 臺灣地方（一）

我が國。西南端せいなんニシミナ臺灣海峡たいわんかいけつを隔へだてて

タイロンカイケフチ中ニ

九

○地理第六學年前期用

九

清國に對し支那ノ國太平洋に臨む。本島ノコトナリ地勢土地ノア

南北に長く南カラ北ノ方ニナガク縦貫山脈山ノツ殆ど東半部

脈中井ルナカノ高山西側沿りて。數多の河流川ノナガレ

横斷ルヨコギ淡水河。最も著るソノ中デモ屈曲に乏し出入リガ西

岸西ノ遠淺ホド沖ノ方マ概ねタイ絶壁タ岸ノ屬島ツイテ井ル稀ニスク

其の著しきものモソノ中デ主諸島ノイロイロ氣候甚だ。暖イ雨

量雨ノフルア榕樹・竹類・芭蕉。よく茂り。樟。巨大ニヒツヤウ産

業世ワタリチシテ農を主とし農業チオカ甘蔗甘藷イモ産多く物産

サダク殊にワケ收穫入レ年二回に及ぶ一年ノウチニ製茶茶チセイ北

部北ノ製糖砂糖チ製鹽鹽チ製造西部。海濱ウミ樟腦。製造ルコシラヘ

山地に行はれヤマザノ方ニ就中ソノウ海外ノ外國輸出イダス家畜ニ

カフケ豚・水牛。縦貫ラテニツ汽船。本島ノ内内地本州ナド清國。

往來ルコト近時チカ交通。頗る便利タイソウサされどソウダ沿岸

良港稀なるが故にヨイミナトガ海陸の聯絡海ト陸トノ不便。免

れずノガレラ人口人ノ概ね。支那。移住スム子孫。重に。平

野に住し平野ニス農商の業を營む事チシテ井ル古來ムカシ數種



五六ト蕃人シヤパン今尙モイマデ未開のままヒラケナイ殺伐シタリスルコト

近來チカ内地人增加コト達せりトドイ

第六 臺灣地方(二)

都邑ミヤコト臺北臺臺灣總督府サメル役所所在地淡水河に

臨み河ニムイテ井テ人口凡そカホ製茶業盛茶ヲ製スル東北基

隆タイワンノ北ノ部出入繁ク内地樟腦海外輸

出外國ニツ近傍所就中金瓜石屈指屈

ニハ産金地臺南本島第二都會打狗

ノ南部ニアル港 砂糖 要津ダイシツ澎湖諸島 要港大切ナ

第七 北海道地方(一)

北海道地方北海道本島ト千島東北に連れる千島列

島列島トハ津輕海峡青森縣ト北海道ノ間ノ海隔てて本州に對

し本州ニ向ツ宗谷海峡北海道トカラフト狹み樺太と相望

ア中央部地勢高峻土地ノ様子ガヒツ山岳本島重な

る分水嶺火山西南部駒が岳少からずス

ナイ概ね高地に發し土地ノ高イト四方海に注ぐ著し

流域ル川ノナガレテ井ノ 各々平野ソレソレノ 屈指ノ 長流エビオリノ中ニハイル  
 開拓土地ヲ 一般イツタ 出入ハナハシ 乏しスデハイリガ 半島狀半島ノ 内浦ウチウラ  
 灣を抱くウチウラヲ 寒氣サム 一般イツタ 強くイツタイ 殊コト に石  
 狩川カガハ の上流ト 寒地サムイ 降雪カウセツ の量リヤウ アンキノフルニツ 日本海岸地  
 方日本海ニ 古來ムカシ アイヌ人アイヌ 戸口コウ 稀少セウ  
 次第シ にダ 其中ナカ 僅ワヅカ にシテ 満ミ たス 水産業スイサン 移住イセウ  
 初めハジメ 昆布コンブ 農牧ノウボク の業ギョウ 近年キンネン 漸シヅカ くシテ 豆類マメ 馬ウマ

鈴薯シヨ 林檎リンシヨ 栽培サイバイ 馬ウマ の飼養シヨウ 林産物リンサンブツ 蝦エ  
 夷松エイソウ 鑛産物クワンサンブツ 石炭セキタン を主シヨ としシテ 硫黄リウウ の産サン  
 鐵道テツドウ 石狩平野シヨウヘイ 經ス てツ 上川平野カミカハ 幹線カンセン 支線シセン  
 中部チュウブ 内浦灣ウチウラ の岸キ 頗スベ るシテ 頻繁ヒンパン 季節キセツ 濃ノウ  
 霧キリ 流水リュウスイ 屢々シバシバ 航海カウカイ を妨サマ げラ るシテ 濃ノウ

第八 北海道地方 (二)

北海道廳北海道ヲ 農科大學農業ノ 所在地シヨ 麻布マフ 開港カイカウ  
 西方セイフ 商業シヤウ 木材モク 輸出シュツク 函館ファンカン 有名メイメイ 開港カイカウ

場バウエキチス多く。當れる。山地。石炭を産し石炭が室蘭。  
 積出す。旭川。鐵道の分岐點テツダウノ分所在地。三十有  
 餘三十ア島嶼タクサンノ載く。東北端ヒガシ北狭き。千島海峽。  
 露領ウシヤノリヤ近海。海獸多しウミニスマケダ

第九 樺太地方

樺太島。北海道本島。西に位し北ノ方ニ地形土地ノ南北に  
 長く南カラ北ノ方ニ面しムカ隔てて。北半北ノハ露西亞。南半南ノハ  
 我國に屬すワガ國ニツ邦領ワガ國ノリ縦貫タテニツ日露國境日本ト露

空林林ニ木ノナ境界標サカヘノ山脈。挾む。一半島東ニ中知床半島  
 其の間。亦一半島北知床半突出ツキ注ぐナガレ北方北ノ方偏せる  
 を以てカタヨツテ冬季冬ノア寒氣サマ甚だ強しタインウ然れども  
 降雪の量ユキノフル殆どオホ異ならずチガハ鯨・鱒・鱈・鮭・昆  
 布。水産物に富み海ヤ川ノサンア膾炙をつとせ漁期魚ノタクサン内地  
 本洲ノ出漁する者リヤウニテ山林山ヤ面積土地ノ頗る廣く大層ヒロク  
 蝦夷松。櫻松。鑛産物。平地土地ノ低ク肥沃ヨク土地ノ盛なら  
 ずサカン道路ミチノ改修ホス漸く行はれダンダント沿岸。定

期航海目チキメテ汽船の敷設テツグダウチ甚だ少くタイサウ冬季トノキ

凍結リカタマルコト海陸共に陸上モ交通未だ便ならずトガマダ便利

住民ニシテ大部分ダイブン移住者ウツリ住ム人々尙次第マダ此上

増加ゾウカ傾向ケイコウ土人ハジメカラ其ノ種類極めてツテ豊原トヨハラ

南部ナンブ樺太廳カハヤトチヤウ所在シヨザイ地チ大泊オホトマリ要路エウ

當れどもアタレドモ冬季トウキ海水凍結カイスイトウキツ甚だしき間ハナハシキマ

船舶センフネ西岸セイガン鯨ニシノの漁獵イサノ都邑トウイフ

尋常小學地理字引 卷二 第六學年前期用(終)

普通學研究會著

尋常小學 日本歴史字引

第六學年前期用

尋常小學日本歴史字引 卷二 第六學年前期用

普通學研究會著

第一 足利義滿

初政ノ政治尊氏。孫尊氏。○義滿薨じ。身分ノ高キ人。後僅に。將軍職

將軍トハイクサノコト。尚盛。上に。足利氏一族。足利氏ノ身並び。將士

大將ト内亂。ウチワノ相繼ぎ。幕府の政。幕府トハ武士ノ政。整。既に今マ

死歿。死シマフテ。幼主。シユシ。輔佐。ルコト。威勢。ホヒ。頗る。加り。天下漸

く平ぎ。國內ガダ。紀元。一ツノ國ノ多年。シツキ。兵亂。始。めて。治。

隨ひ。驕奢。オゴル。壯麗。ナル。邸宅。自分ノ營み。ヘテ。花ノ御所。義

持。讓る。太政大臣。フ高キ官ナリ。任ぜられ。武人。ラヒ。平清

盛以後。清盛カラ。第家。ヤ。北山に營み。京都ノ北山。幽邃。シツカナコト。庭園

を設け。ツクリニハチ。庭中。三層ノ閣。三ガイノ高。起し。タテ。塗る。黄

金。金ノ稱して。金閣と云へり。トナヘテ。金ノタ。遂に。己ガ行列。自分

ヤウ。上皇。御位チユツラレ。御儀式。擬して。マ子チ。關白以下。關白トハ昔天皇

トリシ重公卿。ゴテンニ仕ヘ。支那に交通。明主。支那ノ國。稱號。人ヲホト上。大

義名分。人トシテ。モツト。モカ。モイ。行爲。ナヒ。頗る。忘れ。

第二 應仁の亂今カラ四百四十五年

室町幕府足利尊氏ノ開 威嚴の缺乏エライイキホヒ 初め。建武中興建武中興

の政後醍醐天皇ノ時ニ武士ノシテチツタ政治チ 不平。誘ひ。武家政治武士ガ

再興フタタビモトノ 諸將。自らシゼ 強大コトヨキ 内亂。屢々起り

原因モトナナ せり。抑へ。威勢ホビキ 復漸また 衰へマダダンダン 叛く。山

名氏清。大内義弘。抑へ。威勢ホビキ 復漸また 衰へマダダンダン 叛く。山

折柄。幼職オサシヨク を襲つ ぎ。將軍将軍ノ職 榮華栄華 に耽りオゴリニ 意ココ 遊

樂オト 重税オモイゼイキ を課す。海内ウチノ 騒さわ がし。選えら び。管領

職シヨク 管領管領ノイ 輔たす け。政務セイブツ ノコト 統す べマ トリシおも 重おも き。各家カク 督とく 相續ソレゾレ

因よ り。争亂オウラン ノヒ 獨ひと り。たまたま丁度 ソ既 久ひさ し。僧ソウ 還けん

俗ソク 一度一度 僧僧 ニナツテ 井井 タノ ガフ 嗣し ツア トギ 輔ほ 佐さ。實じつ 子し ノ子 ドモ 斥しりぞ けハ 子子 ノノ 傳つた へ。

劣おと らざる ナイ 託たく せり マカ ゴイ 倚い 頼らい ヨリ ニス ル各 好この める スソ レゾ レレ 黨たう し

自み らカ タナ 天てん 下か の勢。自み らリ 兩りやう 分ぶん ニシ ゼン ニツ 對たい 陣ちん ムカ ヒア ヲツ テ

皇居くわうきよ。著名ちやうめい 社しゃ 寺じ。公卿くぎやう。將士しやうし。邸宅ていたく。兵火へいくわ 戦せん 争そう ノタ メニ

燒野やけの。諸家しよけ の寶 物ぶつ。ルタ カラ モノ アニ 記き 録ろく シタ モノ コト 亡ほろ び。病死びやうし。倦う みコト

止や み。復また 命めい を奉 ぜず。互たがひ。相攻伐あひこう。永年えいねん。困こん 苦く

シクル顧みずカヘリ。カインガへナイン。驕奢じょうしゃ。耽りたまり。ならひてマナチ。銀閣ぎんかくを構へかま。銀ぎんヲヌツタ高イタタモノチコシラヘ。茶ちやの湯ゆ。空しくむな。財政ざいせい。金きんノ出益しゅつえき々く。困難こんん。威令ゐれい。殆どほとん。下しも。

第三 戰國時代

英雄えいゆう。大將たishō。割據かきよ。土地ちどヲワケトツテタテコモル。應仁おうにんの亂らん。後ご。應仁おうにんノ亂らんガスンテカラノチニ。衰おとろへ。統一いつ。一ツニシメククル。領地りやうち。自分じぶんノワケモツ土地。境土きやうど。弱小じやくせう。小サクテヨハイ。併あはせニスル。競きそひ起おこり。戰亂せんらん。相模さかみ。甲斐かひ。越後えちご。安藝あき。近畿きんき爭亂さうらんのさい際さい。近畿きんき地方ちほうガミ。武家政治ぶけせい。止とむを得えずナシニ。東國とうこく。カマケラ地方ノ。ゆるナシニ。かせユダシノ。出來ユダシノ。

基氏もとうぢ。子孫しそん相繼あひつぎ子ヤ孫ガ次々ニ。勢いきほひに募つのり勢ニシヤ。疎遠そゑん。アマリユキヤチセナクナル。

執事しつじ。家ノ事アツカフ人ヲ取しり稱せしめ。擬なしマナチ。反はん抗かう。曾孫そうそん。孫そんニ出は來はり孫ニ出來。滅ほろぶ。

浪士らうし。主人しゅじんヲモタナイサム。駿河すまが。赴おもむき寄食。ヤシナツテモラ。東國とうこく久ひさしく關東地。方ちほう。

氏綱うぢつな。氏康うぢやす。智勇ちゆうゆう。氣ちエヤ勇ゆう。初頃はつしめ。逐おひケテ。大半たいはん。オホカダハン。併あす併す。

肩かたを並ならべ武田。信立しんけん。上杉うへすぎ謙信けんしん。領主りやうしゅ。其ノ土地そのちどヲモテル人ひと。信濃しんのう。遠とほ。

江え。強大きやうだい。代代だいだい。隣國りんこく。頼たりタノ。家名かめいを授さづく家ノ名前チ。戰術せんじゆつクイ。

サチスルハフ。長ちやう。シヤウ川。中島なかじま。會戰くわいせん。シアフ。勝敗しょうばい決けつせずカチマケガ。甲か。

越あつ 越あつ 越後ノ國ト對立。各機を見てリシレソレオ將軍を擁し。志を成

す自分ノ思フ 謀臣ハカリゴトヲ相 大江廣元。周防。屬せり井ノ部

將ケライ 害せらるレ 嚴島。長門。領したりシ 威ホイ 中

國地方山陰道、山陽道地方 振へり。島津氏。奥羽。勢力ホイキ 割據の英

雄アチラコチヲツテ 滅ほろ され。從へ。年齢コト 比較表ルヘウ

第四 織田信長

桶狹間の戦桶狹間ハ名古屋 後裔子孫ノ 斯波氏。仕へ。初頃。勢

に乗じてイキホヒニ 三國の大兵駿河、遠江、三河ノ多クノ兵 率ひき めテ攻寄せ。風

雨に乗じケ 風、雨ニツ 襲おそ ひ。斬り。威名ヒヨウ 顯あら する。美濃ノ 名

居城ツ子ニ 岐阜。衰微オトロ 威令カ の及ぶ所井ノ部、命令ノ 實權

握り。家臣家ノケ 松永氏。政權政治チスル 擅ぼし 下に移うつ する。

群雄タクサン 雲クモ の如ごと く。如何いかん とも徒ドウ に擁よう せられヤカ

唯ただ。天下てんか の形勢けいせい 日本國中ノ御料ごりょう の土地とち 横領おうりやう 御

財政さいせい 金シ 出シ 亦また 窮乏きゆうぱん 御費用ごひよう。獻けん ぜずサシ上 皇居破損くわうきよ

修繕しゆせん スナホ 興復きゆうふく フタタビモト 位くらゐ に即つ ぎ。御衰微ごすいび 武名ぶな。

聞召ききめ すキカ 遣つかは し。詔みことり。感激かんげき 睿慮えいりよ 逃のが れ。降くだ しサン



就つかしめ。修理しうり。御料ごりょう。朝儀てうぎ。廢絶はいぜつ。

復興ふくこう。王事わうじ。稍や。舊觀きうくわん。復すふく。平たい。威名ゐめい。

既すでに。定さだまり。北國ほくこく。其その將しやう。對たいせしめ。伐うち。

征服せいふく。途みちに。館くわんせしに。部ぶ下かの將しやう。

業わざを大成たいせいせり。害がいせられ。天正てんしやう。距さる。信長のぶながの遺ゐ。

第五 豊臣秀吉

出世しゅつせい。農家のうか。賤役せんえきに服ふくし。智勇ちゆう。人ひとに勝すぐれ。

屢々しばしば功こうを立て。平定へいてい。諸城しよじやうを陷おとしれ。備中びちゆう。

對陣たいじん。形勢けいせいの不可ふか。和わを求もとむ。變報へんぱう。

急きふに。和睦わくぼく。還かへし。山崎やまざき。距さる。僅わずかに。部下ぶかの將士しやうし。

其その機きを失うしなひ。獨ひとり。威勢ゐせい。頓とんに振ふるへり。其そ。

兵へいを舉あげて。却かへつて。近江おうみの賤しん。岳だけ。敗はい。

死し。遺志ゐしを繼つぎ。鎮定ちんてい。長曾ちやうそ。我部わがべ。元親もとちか。景かげ。

勝かつ。服ふくせしめ。島津しまづ。義久よしひさ。小田原おだわら。皆風みなかぜを望のぞんで來きた。

り服しソノイキホヒノツヨ打續く。鎮り。薨去身分ノ高イ人關白天皇チ  
テ政事チトリ家名家ノメ賜はり。行幸天皇ノオカ請ひ。諸大名アチヲコチ  
シ重イケライ誓はしめ。御料を獻じ皇室ニ入り用ナ費市街整理チ  
尊崇外郭外ノマ荒廢アレニ帝都ミヤ面目アサマ奏し天皇ニ申養子ヤウジ  
ウチチヨク讓り。太閤關白ノ職チ子ニユ明と好を修め明ノ國トヨク來聘ミツギ物チ  
トトノヘル威力。西海の邊民九州地方ノカタ沿海地方海ニソフタ掠め。彼我  
の國交ムカフノ國トワ斷絶断レテ私に。國威國ノ井發揚ハツヤウ欲し。漸  
く。旨ワケ服從フクジュウ促せり。要求ユウキウに應ぜずワカイフコト諭サトス威

を恐れ井クワウチ滅亡メツボウ翌年よくねん令を發し命令チ先鋒せんぱう勇敢ゆうか  
イサマシ忽ち。國都ミヤコ京城けいじやう陥れ。平壤へいじやう擒とり風靡ふうび援えん  
兵タスケ復また。行長ゆきなによりて行長ニタ召還せうくわんせりヨビモ和議わぎの行  
違ちがひナカナホリノ事ニツイテ國書こくしよ封じ領地チア無禮むれい。薨こう。遺命いめいノイヒツケ兵を  
收め兵タイチヒ前後ぜんご外征げいせいの師外國チセメ告げ。

第六 徳川家康

新田氏しんたにの後あと孫まごノ勝かちれ。器量きりやうエハタラヤ領土りやうど。夾はさまり。困難こんなん  
地位ちゐ。人質ひとぢ敵たてノ方かたニ質あつト。辛苦しんくシクル桶狭間おけのさ。敗死はいし。與ともし。薨去こうきよ。

容易。屈せずヨハラ和を講ぜしめ。顯れ。舊領地モトノリ駿しゅん遠・參・甲・信。移る。前田利家。輔け。威權けん井クワウ恩顧おんの大名だいみやう秀吉ニカハユうれ憂へカフ輝元。除く。謀りきなソウダン天下の形勢けいせい日本國中にっぽん美濃。勝敗。叛き。東軍とうぐん徳川氏とくがわ西軍せいぐん豊臣氏ほうしん忽。慶長賞罰。削り。收め。有功ゆうこうアツタ加増かぞうフチチ服屬ふくぞくツクコト外様大名がいさまだいみやうモト豊臣氏ほうしんニ從ヒシモノガア譜代大名ふだいだいみやうモトカラ徳川氏とくがわニ轉換てんくわんスルコト疎遠そえんトホイ要地えうちナ土地親密しんみつタゴクシ配置はいちチクコト實權じつけんケシ征夷大將軍せいゐだいしやうぐん從來の位置じゆうらいちノ井チい大名の一員だいみやういちいんヒトリ威望びやうばう井ク富力ふりよくタクサンノ承

け。堅固。舊恩きゆうおん今マデニウ心こころを寄するよカタクニミ譲り。尙。憚りはばき。きニカケ方廣寺。大佛再興だいぶつさいきやう大佛だいぶつチフタタ鐘銘しやうめいンデアン子ニホリコ國家こくが安康。呪詛しゅそコト詰責きつせきセメル所ところ爲なヤリカ快こころよから。勸め。舉。圍かこみ。固く。和を講じ。自殺。薨去。距る。翌年。諸大名しよだいみやうを統べす多クノ大名だいみやうチ法令はふれい興し。太平の基。

第七 徳川家光

制度せいどイロイロ整ととのふヨクセイト勢望せいぼうの相違さうゐセイリヨクノ外様とぎさま同輩どうはい同シナカ之これに對したいカツテ憚はばる所ところスルトヨロ全まく。臣下しんかイケラ待遇たいぐうシタ威あ

權けん井クワウトケンリ制度せいどハベテノ整ととのひ。邸宅ていたくキヤシヤシ妻子さいしヤツママ領地りやうちに赴おもむく。交かう通貿易つうばうえき。注意ちゆうい。大隅おほすみ九州九州ノ歐羅巴人ようろぱじん。始はじめ。小銃せうじゆう小サイテツツ折をりしもし丁度ていどソノ戰國せんごく爭亂そうらんの際さいミダレミダレタル時ときノ利器りき道具どうぐ武人ぶじん士し歡迎くわんげいをを受けうシテハヤシテハヤ戰術せんじゆつイクサノ一變いつべんカハルカハル追々おひおひ。渡來とらいテクルテクル基督きりすと教けうケヤンケヤントノ一派いつぱい。是等これら。外國人ぐわいこくじん。唱となへたりたりイフイフ宣教師せんけうしメメル人メメル人熱ねつ心しん。布教ふけうヒロケウチヒロケウチ從事じゆうじフコトフコト各地かくちコナラコナラ弘ひろまり。保護ほごマモリマモリタ會くわい堂だうヤンケウヤンケウ建たつ。許ゆるす。弊害へいがいヨロシクヨロシクナ多おほきを察さつし多イコト多ヲ斷然だんぜんキツキツパパ禁きんじルトメ方針ほうしんヤリカヤリカタノ嚴禁げんきんトメルトメル海外かいがい諸國しよこくクノクニ交通かうたう頗ずリトリト

るる繁しげくユキキガダイガダイ隨したがひて。ひそかにトツ奉ほうずるズル通常つうじやうマヘマヘ手段しゆだんシカシカ禁絶きんぜつし難がたきをし知しりムツカシキチ知リ重ねて。禁きんをげん嚴げんにしトメル事シチゲ改宗かいしゆうを肯がえんぜざざるシウシチアラタメル事チシヤウチセナイ信者しん者シンズル且ソソ邦人ほうじんノ人ワガ國かいノ人ノ海外かいがいコクコクカカねてよりコレマ遂つひに。肥前ひぜんノ島原しまはら半島はんたう。原城はらじやう。據よりモリ亂らんを起おこしソウドウチ將を遣つかはし大將しやうチ賊勢せきツクノイ盛ツヨ容よう易いスク鎮定ちんてい更さらにアラタ老中らうちゆうノ名名松平まつだいら信のぶ綱つな。兵力へいりきを増ましヘイタイタイ翌年よくねん。禁制きんせいノキキマリ嚴重じゆう。一い切さ。唯ただ長崎ながさきノ一港いつがうを限かぎりタダ長崎ながさきノ港がうダ布教ふけうニくわん係けせざりしウウチケ

ロメルコトニア **和蘭人**のみ **悉く** **佛教**を奉ぜしめ **佛**を奉ぜしめ **佛**を奉ぜしめ

ンツサ **證明**ダテル **鎖國**の**政策** **外國**の**事情**に **外國**の**事情**に

りとからしめ **外國**ノモヤウチヨ **世界**の**進歩** **世**ノ中ノス **憾**あれどク

アルケレドモ **傳播**ルコト **抑止** **目的** **達**するを得たり **達**スル事ガ

第八 **徳川綱吉** **新井白石**

**武家政治** **武士**ガ政治 **始**まりてより **以來** **殊**に **武藝**

を重んぜし **一般**に**振**はず **戰國時代** **僅** **僧侶**

寺ノ **命脈**を保てる **林羅山** **招**き **儒學** **獎勵**

**復興** **出**來れり **水戸侯** **光圀** **著**しき **國**

**史・國文** **研究** **種**々 **大著述** **孔子**の**廟**

**湯島**に**建**て **自**ら**書**を講じ **民間** **中江**

**藤樹** **伊藤仁齋** **稍** **政治**に**倦**み **生**年 **保**

**護** **厚**く **困**難 **加**之 **遊**樂に**耽**り **貨**

**幣**を**改**鑄 **財政**の**窮**乏 **補**ふ **手**段 **奢**侈に

**太平** **打**續 **風俗** **士**民 **奢**侈に

**傾**き **前**代と**趣**を異にせる **現**出 **後**

世ノ當時時ノ年號。元録時代。家繼。職に就く。信任。

用ヒラ弊政。和漢の學。日本ト支那ト學問。西洋の事情。諸

皇子。出家。先例を廢し。建議。

閑院宮家。創立。與りて。使者。待遇法。

替り。慶賀の使者。體面。損ずる。適當の程度。

粗惡。流出。防がん。法令。貿易の額。

制限。親しく。退きて。專著述。

### 第九 徳川吉宗

曾孫。父祖の後を繼ぎ。紀伊家。世嗣。絶え。襲ぐ。

賢明。政治の才。努力。善政。中興の英主。

質素。華奢を戒む。就職。餘弊。虚飾。回避。

風奢侈。士氣。柔弱。儉約の模範。衆を率ひ。風俗。

洋書。禁を緩め。新政。施す。人才。登用。

剛直。法律の大綱。有司。裁判。標準。

産業。甘蔗。凶年。倣ひ。業勸。標準。

○歴史第六學年前期用

二一



明治四十五年三月十日印刷  
明治四十五年三月廿一日發行

定價金參錢

不許複製

著者 普通學研究會  
發行所 東京市下谷區下根岸百〇七番地  
發行所 東京市日本橋區大傳馬町二丁目廿二番地  
印刷者 大阪市西區阿波座二番町一番地  
堀越 幸吉

販賣元

東京市日本橋區大傳馬町二丁目  
大阪市西區阿波座一丁目  
淺見文林堂  
市田昇文館

角筋幡八町屋竹區南大阪  
江文港堂  
筋橋齋町慶順區南大阪  
柳青中田堂  
目四町後備區東大阪  
崇文館  
藤谷

明治四十五年三月十日刊  
明治四十五年三月十日刊

定價金參元

普通學研究會  
發行所  
印刷者  
見文  
幸

販賣元  
東京市日本橋區  
大佛町三丁目  
市田昇文館  
發行所  
印刷者  
見文  
幸

大阪市東區  
賣捌所  
大坂市東區  
賣捌所  
大坂市東區  
賣捌所

普通學研究會著  
**讀本字引**

普通學研究會著  
**地理歷史字引**

普通學研究會著  
**教科書字引**

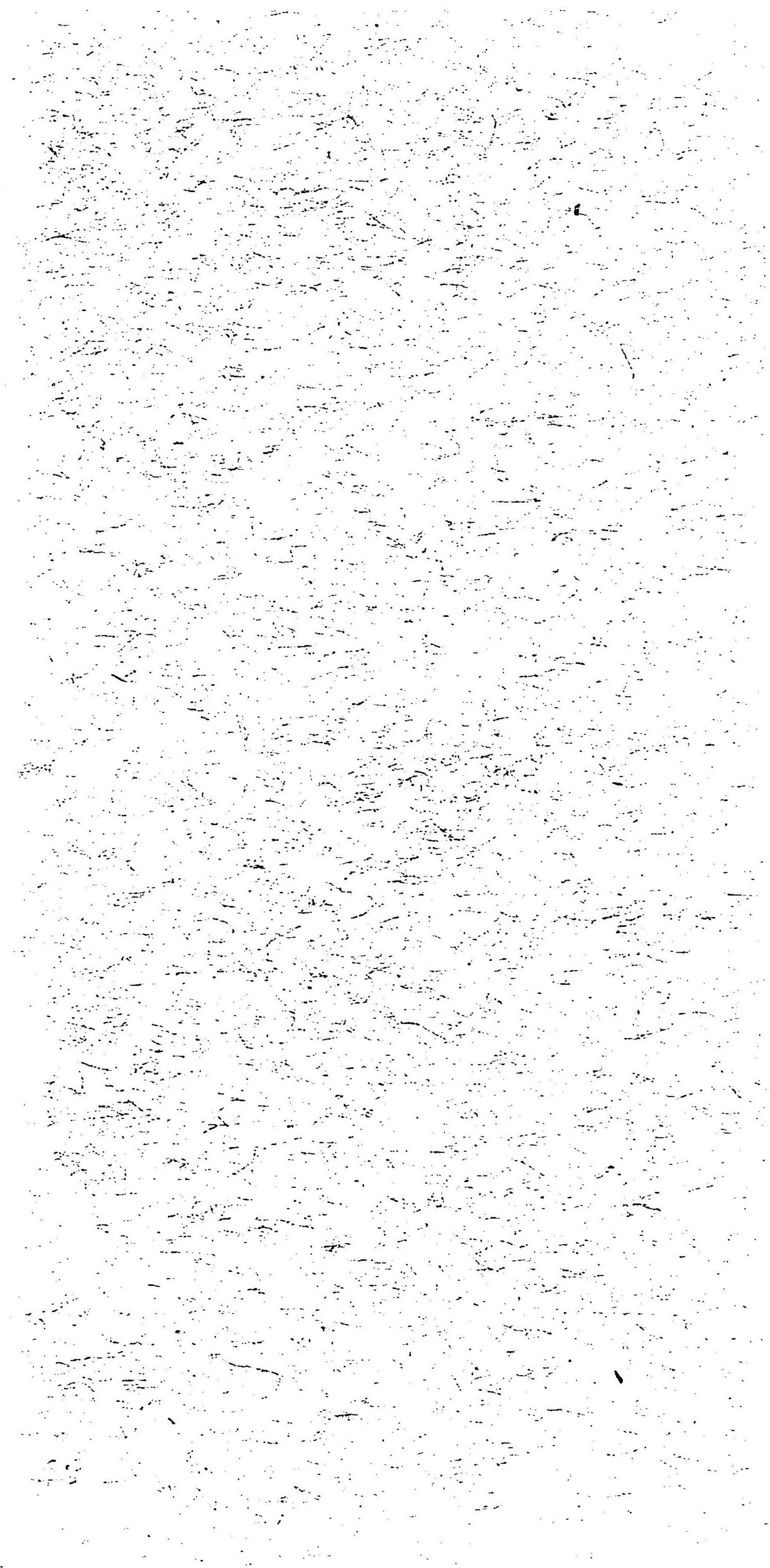
普通學研究會著  
**高等讀本字引**

三卷三管  
**說明明圖**  
**史年代史**

尋常第三學年 尋常第四學年 尋常第五學年 尋常第六學年	高等第一學年 高等第二學年 高等女子 各前期用	各一冊 郵稅三冊マテ 金參 錢錢	尋常第五學年 尋常第六學年	高等第一學年 高等第二學年 各前期用	各一冊 郵稅三冊マテ 金參 錢錢	新三學年用 上卷 下卷 合本	定稅價 金八 錢錢	兒童用 彩色入折本	定稅價 金五 錢錢	兒童用折本甲號乙號	各一冊 郵稅五冊マテ 金貳 錢錢
--------------------------------------	----------------------------------	---------------------------	------------------	--------------------------	---------------------------	-------------------------	-----------------	--------------	-----------------	-----------	---------------------------

發行所 大坂市東區  
市田昇文館





049192-000-5

特54-855

高等小学地理历史字引 第1, 5, 6学年前期用

普通学研究会/編

M45

BEL-0135

